２０１７年度

科目等履修生
出願手続要項

立命館大学
立命館大学大学院

目　　次

１．学　部 …… 1

２．大学院 …… 14

３．教員免許状取得について …… 21

４．学年暦 …… 27

５．キャンパスマップ …… 32

６．出願書類

個人情報の取扱いに関する同意書

科目等履修志望理由書

自己申告票①②

科目等履修受講科目申請票および科目等履修願

学部　科目等履修生制度について

立命館大学では、社会人、市民のみなさんの学問的・実学的興味関心にこたえるものとして、科目等履修生制度を設けています。科目等履修生を志望される方は、以下の諸点にご留意のうえ、所定の手続きを行ってください。

なお、科目等履修生制度とは別に、単位の修得を目的としない聴講生制度を設けています。こちらを志望される方は、「聴講生出願手続要項」をご覧ください。

Ⅰ．科目等履修生制度の概要

１．科目等履修生制度とは

科目等履修生制度は、科目等履修生として授業を履修し、試験に合格すると当該科目の単位を修得できる制度です。

２．2017 年度に科目等履修生の受入を行う学部

衣笠キャンパス	法学部、産業社会学部、国際関係学部、文学部、映像学部
びわこ・くさつキャンパス（BKC）	経済学部、理工学部、情報理工学部、生命科学部、スポーツ健康科学部
大阪いばらきキャンパス（OIC）	経営学部、政策科学部、総合心理学部

３．履修科目

⑴　履修科目

本学で開講している科目の中から、志望する科目を履修できます。ただし、外国語、演習、研究入門、講読、実験、実習等定員の定められている科目等は履修できません。

また、教員免許状取得を目的として科目等履修生制度を利用する場合は、本要項の P.21 をご覧ください。

⑵　シラバス（講義概要）および時間割

科目等履修生が履修できる科目のみのシラバスおよび時間割はありませんので、3 月中旬の時間割が確定する時期以降に履修を志望する学部事務室（OIC は学びステーション）にて、開講予定科目を確認してください。シラバスは、立命館大学のホームページで 3 月 10 日（金）午前 10 時から確認できます。

〔立命館大学シラバス〕

「立命館大学ホームページ→在学生の方→シラバス→学外向け」

４．履修できる単位数

当該年度に履修できる単位数は、40 単位（複数学部にまたがって履修する場合も含む）が上限です。

５．授業時間

第１限（1・2 時限）	第２限（3・4 時限）	第３限（5・6 時限）	第４限（7・8 時限）	第５限（9・10 時限）	第６限（11･12 時限）	第７限（13･14 時限）
9：00～10：30	10：40～12：10	13：00～14：30	14：40～16：10	16：20～17：50	18：00～19：30	19：40～21：10

（　　）内は理工学部・情報理工学部・生命科学部の時限を表します。

Ⅱ．出願手続

1．出願資格

学部の科目の履修を志望することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とします。

⑴　立命館大学学則第 21 条に規定する大学の入学資格を有する者

⑵　履修しようとする科目について、履修に必要な学力があると学部長が認めた者

※他の大学、短大ならびに大学院に在籍しながら（通信教育を含む）履修を志望する方は、所属する大学（短大・大学院）の許可書を提出してください（許可書は自由書式）。

※外国籍の方は、履修の期間に相当する日本国の在留資格を有することが必要です。なお、在留資格が「留学」の場合は､履修時間数の要件がありますので､詳しくは各キャンパスの国際教育センターで確認してください。

※国際関係学部における、科目名が英語表記の授業の履修を申請する方は、英語で授業を進めることから、TOEFL-iBT® 80 点以上のスコアが必要です。

立命館大学学則第 21 条

⑴　高等学校または中等教育学校を卒業した者

⑵　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

⑶　外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑸　専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑹　文部科学大臣の指定した者

⑺　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

⑻　本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18 歳に達したもの

2．出願受付場所

各学部事務室

※ただし、政策科学部、経営学部、総合心理学部への出願は、OIC 学びステーションで受付けます。

3．出願受付期間

前期　　3 月 22 日（水）～ 3 月 24 日（金）　13：00 ～ 17：00

後期　　・後期に 2017 年度はじめて出願する場合

8 月 28 日（月）～ 8 月 30 日（水）　13：00 ～ 17：00

・本学を当該年度前期に卒業して後期にはじめて出願する場合または前期より引き続き履修する場合で後期科目を登録・変更する場合

9 月 6 日（水）～ 9 月 8 日（金）　13：00 ～ 17：00

4．出願書類

⑴　科目等履修願および科目等履修受講科目申請票（本要項の裏表紙のもの）1 枚

⑵　学部科目等履修志望理由書（本要項に綴じ込みのもので 500 字程度）1 枚

⑶　最終学歴の卒業証明書（出願資格を証明するもの）1 枚

⑷　学生証写真貼付用紙（本要項に同封のもの）1 枚

「Ⅰ．学生情報」に､上記⑴「科目等履修願および科目等履修受講科目申請票」に記載した学部名（複

数の学部にまたがって申請する場合でも、1つの学部名）を記入してください。また、生年月日、氏名、アルファベット表記（留学生のみ）を記入してください。

⑸　個人情報の取扱いに関する同意書（本要項に綴じ込みのもの）　1枚
立命館大学では、個人情報保護に関する法令およびその他の規範を遵守するために、「学校法人立命館個人情報保護基本方針」を定め、個人情報の適正な管理運用を行っています。後掲の「立命館大学における個人情報の取扱いについて」を熟読のうえ、必要事項を記入してください。

⑹　国際関係学部における、科目名が英語表記の授業の履修を申請する場合は、過去2年以内に受験したTOEFL-iBT® 80点以上のスコアシート

⑺　外国籍の方は、履修の期間に相当する日本国の在留資格を有することを証明する在留カード、特別永住者証明書のいずれかの写し

⑻　他の大学、短大ならびに大学院に在籍しながら（通信教育を含む）履修を志望する場合は、所属する大学（短大・大学院）の許可証（自由書式）

※⑴「科目等履修願」と⑷「学生証写真貼付用紙」に貼付する写真は、最近3ケ月以内に撮影したカラー顔写真〈タテ3cm×ヨコ2.4cm〉としてください。

5．科目等履修生選考料

【選考料】10,000円（証紙）

※立命館生協で証紙を購入し、提出してください。

※選考料は、履修科目が複数学部にまたがる場合であっても10,000円です。

※学部と研究科にまたがって出願する場合は、両方の選考料が必要です。

※いったん納入された選考料は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

【証紙販売場所（立命館生協）】

衣笠	至徳館購買部	営業時間は時期により異なります。 立命館生協ホームページでご確認ください。 http://ritsco-op.jp　立命館生協　検索
	存心館・ブックセンター「ふらっと」	
BKC	ユニオンスクエアショップ	
	リンクスクエアショップ	
朱雀	立命館生協朱雀店	
OIC	OIC Shop	

6．出願上の注意

⑴　履修を申請する科目が複数学部にまたがる場合は、当該の学部事務室（OICは学びステーション）と相談のうえ、出願書類を提出してください。

⑵　いったん履修を許可された科目の取消はできません。ただし、前期の出願時に許可された後期科目については、取消を認めることがあります。

Ⅲ．選考および判定結果の通知

1．選考方法

書類選考に加え、面接を行う場合があります。

2．判定結果の通知

前期の判定結果の通知

判定日　3月31日（金）

※判定後「許可通知」または「不許可通知」を送付します。

※前期の授業開始日は 4 月 6 日（木）です。

後期の判定結果の通知

8 月 28 日～ 8 月 30 日出願分の判定日　8 月 30 日（水）の週

9 月 6 日～ 9 月 8 日出願分の判定日　9 月 12 日（火）

※判定後「許可通知」または「不許可通知」を送付します。

※後期の授業開始日は 9 月 26 日（火）です。

Ⅳ．登録手続

下記の納入手続締切日までに登録料・科目等履修料を全額納入してください。期日までに手続が完了しない場合は、許可を取り消します。

１．登録料および科目等履修料

【登録料】

本大学出身者（※）	18,000 円
その他	36,000 円

※本大学出身者とは卒業生、中途退学者、除籍者および在籍者のことです。

※複数の学部･研究科に許可された場合、許可された学部ごとに登録料を納入する必要はありません。

【科目等履修料】（1 単位につき）

法・経済・経営・産業社会・国際関係・政策科学・文・スポーツ健康科学・総合心理の各学部の科目ならびに映像・理工・情報理工・生命科学の専門科目以外の科目	映像・理工・情報理工・生命科学の各学部の専門科目（※）
21,400 円	31,500 円

※上記表の「映像・理工・情報理工・生命科学の各学部の専門科目」は、映像学部の専門基礎科目、理工学部の基礎専門科目および各学部の専門科目、生命科学部の専門基礎科目、共通専門科目ならびに情報理工学部の専門基礎科目、共通専門科目、学科専門科目のことを指します。

２．納入手続締切日

前期に許可を受けた場合の納入手続締切日　4 月 14 日（金）

後期に許可を受けた場合の納入手続締切日

･8 月 28 日～ 8 月 30 日出願分　許可通知書で確認してください（許可判定日から 2 週間以内）

･9 月 6 日～ 9 月 8 日出願分　9 月 26 日（火）

３．登録料・科目等履修料の納入に関わる留意事項

登録料・科目等履修料の納入にあたっては、分割納入はできませんので、あらかじめ所定の金額をご用意いただき、許可通知に同封してある振込用紙を使って納入してください。一度納入された登録料・科目等履修料は返還しません。ただし、後期科目の取消を行う場合のみ、科目等履修料を返還します（前期科目・夏期集中科目の取消の場合は返還しません）。

Ⅴ．後期科目の登録追加および取消

すでに前期の時点で科目等履修生の許可を受けている方で、後期科目の登録追加および取消を行う場合は、「後期授業科目追加および取消申請書」を学部事務室（OIC は学びステーション）で受領のうえ、下記の期間内に手続きを行ってください。後期科目の追加は、前期に履修した科目（前期に履修し不合格に

なった科目も含む）と合わせて 40 単位を超えない範囲で手続きしてください。

１．後期科目を追加する場合

前期出願時の登録単位数より単位数が増加しますので、科目等履修料の納入が必要です。

２．後期科目の取消の場合

前期出願時の登録単位数より単位数が減少しますので、納入された科目等履修料を返還します。

３．後期科目の追加と取消の両方を行う場合

後期科目の追加と取消の両方を行い、前期出願時の登録単位数より単位数が増加する場合は科目等履修料の納入が必要となり、前期出願時の登録単位数より単位数が減少する場合は納入された科目等履修料を返還します。

また、後期科目の追加と取消により登録単位数に変更がない場合でも、1 単位あたりの科目等履修料によって、科目等履修料の追加納入または返還が生じる場合があります。

例：前期登録時に、法学部の科目を前期 2 単位、後期 2 単位登録していた者が、法学部の後期 2 単位を取り消し、映像学部の専門科目 2 単位を新たに追加登録する場合
21,400 円× 4 単位＝ 85,600 円　→　21,400 円× 2 単位＋ 31,500 円× 2 単位＝ 105,800 円
この場合、20,200 円の追加納入が必要となる。

４．手続き

⑴ 「後期授業科目追加および取消申請書」の提出期間：9 月 6 日（水）～ 9 月 8 日（金）
13：00 ～ 17：00

⑵ 後期の判定結果の通知：9 月 12 日（火）

⑶ 追加で履修料の納入が必要な場合の納入手続締切日：9 月 26 日（火）

⑷ 履修料の返還について：「後期授業科目追加および取消申請書」の申請内容が認められ、科目等履修料の返還が生じる場合は、後日、本学財務経理課より「過納学費返金案内」を送付します。

※申請期間内に提出がなかった場合は、科目等履修料の返還はできません。

※後期科目を取り消すことにより、後期登録科目が無くなる場合は、科目等履修生証を返還してください。

Ⅵ．目的に応じた科目等履修など

1．学芸員資格取得を目的とする場合

学芸員資格取得を目的として「学芸員資格に関する科目」の履修を志望する方は、本学の文学部・映像学部卒業生に限られます。あらかじめ、文学部事務室・映像学部事務室に相談をしてから出願してください。

「学芸員資格に関する科目」の履修許可者は、科目等履修料とは別に実習料等が必要です。

２．スポーツ健康科学部の卒業生で教員免許状及び、学部独自資格（トレーニング指導者）の取得を目的とする場合

出願受付開始までに、スポーツ健康科学部事務室に照会してください。

３．京（みやこ）カレッジへの提供科目を受講する場合

本学の科目のうち、一部の科目については大学コンソーシアム京都が開設している「京（みやこ）カレッジ」制度にも提供しています。京カレッジ制度へ提供している科目を履修する場合は、選考を行いますが、選考料および登録料は必要ありません。ただし、科目等履修料は必要です。

なお、京カレッジの科目を受講する場合、出願期間や手続き方法等は、本学の科目等履修生とは異なりますので、詳細は「2017 年　京カレッジ生募集ガイド」（大学コンソーシアム京都にて配布）や「大学コンソーシアム京都ホームページ」（http://www.consortium.or.jp/）を確認してください。

※京（みやこ）カレッジとは

大学コンソーシアム京都が、社会人を対象とする生涯学習事業として、京都市と連携しながら高度な学習機会を提供している制度です。通常の「大学講義」に加えて、「市民教養講座」「キャリアアップ講座」「京都力養成コース」など多様な生涯学習のニーズに対応しています。

【大学コンソーシアム京都／京カレッジ担当】

住所：〒 600-8216　京都市下京区西洞院塩小路下ル　キャンパスプラザ京都内

電話：075-353-9140

４．独立行政法人大学評価・学位授与機構が授与する学位の取得を目的とする場合

短期大学・高等専門学校を卒業または大学に 2 年以上在学し 62 単位以上修得した場合、科目等履修生として修得した単位とあわせて大学評価・学位授与機構に申請して審査・試験に合格すると、学士の学位が授与されます。

詳しくは同機構にお問い合わせください。

【独立行政法人大学評価・学位授与機構／学位審査課】

〒 187-8587　東京都小平市学園西町 1-29-1

WEB ページ　http://www.niad.ac.jp/

TEL　042-307-1550（お問い合わせ専用）

Ⅶ. 科目等履修をはじめるにあたって

１．科目等履修生証の交付

選考の結果、許可となり指定期間内に所定の手続き（登録料・科目等履修料の納入を含む）を完了した者を本学の科目等履修生とし、「科目等履修生証」を交付します。

２．試験および単位修得

科目等履修生は、許可された授業科目について試験を受験することができ、試験に合格すれば、単位を修得することができます。科目等履修生で修得した単位は、本学の正規課程へ入学した場合に、入学後の単位として認定することがあります。認定する単位数には上限があります。

成績評価は、筆記試験によるほか、課題レポートによる場合や日常的な授業における取組状況による場合があります。詳細は科目を開講している学部事務室に照会してください。

３．RAINBOW ユーザー ID 通知書の交付

情報教室やマルチメディアルームでパソコンを利用するためのユーザー ID とパスワードを交付します。申請の必要はありません。なお、前年度通年あるいは後期より引き続き科目等履修生として許可された場合は、ユーザー ID とパスワードは同じものをそのまま継続して使用できます（新規交付は行いません）。

４．休講や補講などの授業情報

休講や補講などの授業情報は、CAMPUS WEB で確認してください。CAMPUS WEB にログインするには、立命館大学ホームページの「在学生の皆さまへ」ページからアクセスし、RAINBOW ユーザー ID とパスワードを入力してください。

５．学内施設の利用

科目等履修生は、本学図書館、メディアライブラリーおよびメディアセンター、情報教室およびマルチメディアルームの利用ができます。

６．証明書の交付

科目等履修生は必要により、「科目等履修生証明書」および「成績証明書」の交付を受けることができます。なお､通学定期券の購入等のために「通学証明書」および「学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）」の交付を受けることはできません。

７．諸規則の遵守

科目等履修生は、本大学の諸規則を守らなければなりません。科目等履修生が本大学の諸規則に反する行為または科目等履修生として相応しくない行為を行った場合は、科目等履修生の身分を剥奪し、授業科目の履修を中止します。

８．その他の留意事項

⑴　科目等履修生は、単年度ごとの在籍となりますので、次年度も志望される場合はあらためて出願しなければなりません。年度ごとに選考料・登録料・科目等履修料が必要となります。

⑵　本学では自動車通学を禁止しています。また、バイク・自転車通学をする場合は、登録手続きが必要ですので、各キャンパスの以下のところでお問い合わせください。

①　朱雀キャンパス　中川会館１階　キャンパス管理室
②　衣笠キャンパス　至徳館１階　キャンパスインフォメーション
③　びわこ・くさつキャンパス　コアステーション１階　キャンパス管理室
④　大阪いばらきキャンパス　A 棟１階　キャンパスインフォメーション
※バイクは 125cc 以下に限定されます（OIC のみ）。

⑶　科目等履修生には、本学の課外活動への参加を認めていません。

体系的学習のための分野と主な科目

学部別に体系的学習のための分野を設定し、その主な科目を例示していますので履修の際の参考としてください。

なお、科目によっては開講されない場合があります。履修にあたっては、各学部事務室で確認してください。

〈衣笠キャンパス〉

学部	分野		分野の概要	主な科目
法学部	法学科	ビジネス・金融	民間企業一般もしくは銀行・保険・証券等、金融機関において必要とされる法律知識を習得し、応用可能な基本的能力を身につけることを目指します。	民法Ⅰα・Ⅰβ・Ⅱ（債権各論）、憲法Ⅰ・Ⅱ、刑法Ⅰ（総論）、司法過程論、民法Ⅲ（物権法）、民法Ⅳ（債権総論）、民法Ⅴ（担保法）、会社法Ⅰ・Ⅱ、商取引法、有価証券法、知的財産法、経済法Ⅰ・Ⅱ、民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、保険法
		生活・環境	日常の市民生活において発生する、環境や家族などの法的問題に対処する基本的能力を身につけることを目指します。	民法Ⅰα・Ⅰβ・Ⅱ（債権各論）、憲法Ⅰ・Ⅱ、刑法Ⅰ（総論）、司法過程論、行政法Ⅰ・Ⅱ、環境法Ⅰ・Ⅱ、労働法、社会保障法、社会福祉法、税法、消費者法、民法Ⅵ（家族法）
		自由・人権	国家・行政権力との間で発生する市民の人権に係る法的問題について理解を深めるとともに、この分野の法の専門的知識を習得することを目指します。	民法Ⅰα・Ⅰβ・Ⅱ（債権各論）、憲法Ⅰ・Ⅱ、刑法Ⅰ（総論）・Ⅱ（各論）、国際法Ⅰ、行政法Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、犯罪学、労働法、少年法、地方自治法、国際人権法
		歴史・文化	現代の法律現象に対して歴史的・理論的観点から法に関する専門的理解を深めることを目指します。	民法Ⅰα・Ⅰβ・Ⅱ（債権各論）、憲法Ⅰ・Ⅱ、刑法Ⅰ（総論）、英米法Ⅰ・Ⅱ、日本法史、西洋法史、法社会学、ヨーロッパ法、日本政治思想史、現代政治思想史、法哲学、アジア法、ジェンダーと法
		政治・市民社会	市民社会の立場から、政府や国の活動、選挙や権力の問題を学び、また、これら選挙運動や権力の動向を報道するマスコミや、その政治への影響を学ぶことを通じて政治学・行政学の専門的理解を深めることを目指します。	民法Ⅰα・Ⅰβ・Ⅱ（債権各論）、憲法Ⅰ・Ⅱ、刑法Ⅰ（総論）、日本外交論、現代日本政治論、近代日本政治史、比較政治制度論、行政管理論、福祉政治、政治学原論Ⅰ・Ⅱ、西洋政治外交史、近代国際政治史、政治コミュニケーション、公共性論、現代国際政治史、政治意識論、政治文化論
		グローバル	基本的な国内法とともに外国法、国際法を学ぶことで、異なる法体系の存在を理解し、国際比較の中でわが国の法律の理解を深めます。	民法Ⅰα・Ⅰβ・Ⅱ（債権各論）、憲法Ⅰ・Ⅱ、刑法Ⅰ（総論）、国際法Ⅰ・Ⅱ、英米法Ⅰ・Ⅱ、国際私法Ⅰ・Ⅱ、国際政治論Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパ法、国際人権法、アジア法、国際取引法、国際経済法
産業社会学部	現代社会学科	現代社会専攻	国や自治体、企業、NGO・NPO、そして一人ひとりの市民の視点から、本当に豊かな社会を創造する方法を探究。社会形成、社会文化、環境社会の３領域から編成され、さまざまな課題に対して政治、経済、労働、人間、文化、環境といった多角的な視点から検証できる力を養成する。	労働社会学、現代労働論、キャリアデザイン論、企業社会論、社会階層論、人口論、社会ガバナンス論、比較政治論、現代経済論、日本経済論、アジア社会論、国際社会政策論、国際産業論、国際援助論、国際 NPO･NGO 論、社会文化論、現代文化論、社会思想、社会病理学、精神分析論、社会倫理学、自我論、臨床社会学、比較文化論、比較ジェンダー論、比較宗教論、多文化コミュニケーション、アジア文化論、エスニシティ論、言語文化論、文化人類学、生命倫理学、環境経済学、資源エネルギー論、環境ライフスタイル論、環境教育論、国際環境政策論、リスク社会論、住民自治論、参加のデザイン論、環境形成論、NPO･NGO 論、まちづくりと産業、景観デザイン論、等

学部	分　野		分野の概要	主 な 科 目
産業社会学部	現代社会学科	メディア社会専攻	メディアの問題点や機能、歴史的・社会的発展の経緯、社会のメディアの関わりについて学習し、メディアが伝える情報を的確に分析できる力や、自らメディアを使って情報発信できるスキルの養成に注力する。	メディア倫理、パブリックアクセス論、映像ジャーナリズム論、コミュニティメディア論、音声メディア論、国際ジャーナリズム論、ニュース論、メディアリテラシー論、子どもとメディア、情報経済論、広告表現論、グローバルメディア論、コミュニケーション政策論、活字メディア論、スポーツ変動論、スポーツメディア論、表象文化論、広告文化論、観光文化論、映像表現論、映画と社会、映画芸術論、伝統芸能論、演劇論、等
		スポーツ社会専攻	これからの市民社会を語る上で欠かせないキーワードとして「スポーツ」を取り上げ、公的機関、企業、またボランティアといった立場からスポーツと社会との関わりについて考察を深める。スポーツの振興を通して豊かな社会の実現に貢献できる能力の養成をめざす。	スポーツ社会学、スポーツ規範論、スポーツ人類学、スポーツ史、比較スポーツ論、身体表現論、武道論、スポーツ批評論、スポーツ変動論、グローバルスポーツ論、スポーツとジェンダー、子どもとスポーツ、スポーツマネジメント論、ヘルスマネジメント論、地域スポーツ論、スポーツ指導論、スポーツ政策論、スポーツ行政論、スポーツ法学、スポーツ産業論、スポーツメディア論、スポーツボランティア論、スポーツクラブ論、障害者とスポーツ、等
		子ども社会専攻	「子どもと社会」「子どもの社会」について、教育学や心理学といった特定の学問の視点に限定されることなく、社会学をはじめとする諸科学の成果を幅広く用いながら多角的に考察を進める。	子どもと地球環境、国際教育援助論、比較市民教育論、メディアリテラシー論、子どもとメディア、生命倫理学、家族社会学、自我論、子どもと遊び、子どもとスポーツ、身体表現論、学校文化・学校空間論、スクールソーシャルワーク論、学校保健、ジェンダーと教育、いのちの教育、家族関係論、臨床人間学、等
		人間福祉専攻	老人、子ども、障害者を対象とした福祉制度をはじめ、これからの福祉ビジネスや地域福祉のあり方など、福祉を政治・経済・文化・社会といった側面から考察する。また、対人ケアについても理解を深められるよう、カウンセリングやリハビリテーションの理論を学べる科目も設置。	臨床社会学、福祉社会学、ライフサイクル論、司法福祉論、医療福祉論、地域保健論、福祉発達史、社会福祉法制、福祉労働論、アジアの福祉研究、国際保健医療政策研究、障害者教育・福祉論、老年社会学、福祉政策論、臨床人間学、NPO・NGO 論、福祉行財政論、福祉産業論、福祉経営論、コミュニティケア論、国際NPO・NGO 論、国際福祉社会論、国際福祉政策論、児童・青年心理学、福祉臨床論、心理臨床論、家族関係論、発達障害論、乳幼児心理学、障害者とスポーツ、心理検査法、人間発達論、発達保障論、カウンセリング論、人間コミュニケーション論、スクールソーシャルワーク論、福祉計画論、バリアフリー論、福祉住環境論、リハビリテーション論、等
国際関係学部	・国際秩序平和 Governance and Peace Program ・国際協力開発 Development and Sustainability Program ・国際文化理解 Culture and Society Program		【国際秩序平和】 国際政治、国際法などの分野を総合して平和と国際秩序について学びます。 【国際協力開発】 地球のあらゆる地域におけるバランスのとれた発展という観点から望ましい国際協力や開発の方向を学際的・体系的・実践的に探究します。 【国際文化理解】 国際社会の政治・経済構造と文明・文化の関係、共生を妨げる文化的要因、異文化理解の方法などを学びます。	憲法Ⅰ～Ⅲ、国際法Ⅰ～Ⅳ、現代政治論、途上国政治論、欧米政治史Ⅰ・Ⅱ、国際関係史、比較政治論、国際機構論、マクロ経済学、ミクロ経済学、社会開発論、環境経済論Ⅰ・Ⅱ、日本経済論、国際金融論、国際貿易投資論、開発経済論、開発と食料、国際協力論、比較文化論、日本文化・社会論、民族文化誌、ジェンダー論、文化交流史、比較家族論、日欧文化関係史、東アジア文化関係史、社会言語学、現代思想論、国際ジャーナリズム論、国際情報論、地域統合・協力論、東アジア研究Ⅰ・Ⅱ、東南アジア研究Ⅰ、南アジア研究Ⅰ・Ⅱ、ロシア・ユーラシア研究Ⅰ・Ⅱ、北アメリカ研究Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパ研究Ⅰ・Ⅱ、ラテンアメリカ研究Ⅰ・Ⅱ、中東研究Ⅰ・Ⅱ、アフリカ研究Ⅰ・Ⅱ、等

学部	分　野	分野の概要	主 な 科 目
文学部	哲学・倫理学	「人間」を通して、存在、価値、美、自己、他者、社会、自然、生死、倫理などの事象を探究します。	哲学概論Ⅲ･Ⅳ、哲学史Ⅰ～Ⅵ、倫理思想史Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパ現代思想Ⅰ・Ⅱ、等
	教育人間学	人間形成、臨床教育、心、意識、身体、病理、癒し、心理健康などの事象を通して、「人間」を総合的に探究します。	教育人間学概論Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ、文化の人間学、意識の人間学、自己の人間学、変容の人間学、超越の人間学、教育臨床の人間学、等
	日本文学	古代から近現代にかけて、主として日本で創作された文学作品について多方面からの分析・検討を行います。	日本文学概論Ⅲ･Ⅳ、日本文学の光と陰Ⅰ・Ⅱ、日本文学の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ、等
	日本文化情報学	日本語を語学的研究対象として通時的・共時的な視点から考察を試み、その背景にある人間の文化や交流展開のありようを学びます。	日本語学概論Ⅱ、日本文化概論Ⅱ、日本文化の周辺Ⅰ・Ⅱ、日本語表現研究Ⅰ～Ⅳ、日本語音声学、等
	日本史学	古代から近現代までの日本の歴史を政治･社会･文化・対外関係などの諸分野にわたって幅広く学習します。	日本史学総説Ⅰ～Ⅵ、日本史学の視点Ⅰ～Ⅵ、等
	考古学・文化遺産	人類の残した遺跡や遺物から歴史を復原する考古学を学ぶと同時に、遺跡や遺物を中心とする文化遺産の保存と活用について学びます。	考古学・文化遺産総説Ⅰ～Ⅲ、世界の考古学・文化遺産、考古科学、文化遺産の保護と活用、等
	中国文学・思想	遙か古代から綿々と続く中国文学・思想の豊かな世界に広がる問題を研究し、そこに表された人の心を学びます。	中国文学史Ⅰ・Ⅱ、アジアの文学、中国文学・思想特殊講義、等
	東洋史学	中国を中心とする東アジアの歴史や文化を、広範な時代や地域を視野にいれながら学習します。	東洋史学史、東洋史特殊講義、等
	現代東アジア言語・文化	中国・朝鮮半島の現代文化を対象に、東アジアの共通性と多様性を学びます。	東アジア現代文化論Ⅰ・Ⅱ、東アジア現代史論Ⅰ・Ⅱ、現代東アジア言語・文化特殊講義、等
	英米文学	英米を中心とする英語圏の文学作品の研究を通して、英語の言語表現の特性、作品世界を構築する文化的・歴史的背景、そして人間と社会の関係のあり方について理解を深めます。	英米文学概論Ⅱ、英文学史Ⅰ･Ⅱ、米文学史Ⅰ･Ⅱ、英米文学特殊講義、等
	西洋史学	現代世界が歴史的にいかにして形成されたのかを、幅広い視野から学びます。	西洋史概論Ⅲ・Ⅳ、西洋古代史研究、西洋中世史研究、西洋近代史研究、西洋現代史研究、等
	文化芸術	物語、宗教信仰・ファッションといった人間の営みにおける象徴、音楽・絵画・建築といった芸術による表象など、多様な文化を学びます。	日本・東洋美術史、西洋美術史、現代美術論、民族と芸術、仏教と美術、表象とメディア、等
	地理学	過去から未来におよぶ地表上の自然・人文諸現象を分析し考察します。	環境地理学、歴史地理学、村落地理学、都市地理学、経済地理学、等
	地域観光学	「地域」に焦点を合わせながら、観光という現象をめぐる分析・考察の方法を学びます。	地域観光学概論Ⅱ、ツーリズム地域論Ⅰ・Ⅱ、等
	京都学	「京都」を主たる対象として歴史学・文学・地理学のアプローチを展開しながら、総合的・複合的な地域研究を行います。	京都文化論Ⅰ、京都地域論Ⅰ・Ⅱ、京都学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ、等
	言語コミュニケーション	ことばとコミュニケーションの実践を通し、人とことば、社会についての深い洞察と理解を養います。	コミュニケーション論、異文化間コミュニケーション、応用言語学、日本語文法論、等
	国際コミュニケーション	世界の英語圏地域を中心に広く学び、文化や民族の摩擦と共存､多元文化環境での集団と個人､グローバル環境での表現と言語について学習します。	日米日欧関係史､現代の国際社会､国際移動論､国際環境論、英語圏社会論、等
	心理学	心理学の幅広い領域を対象にして、人間や動物の心と行動を科学的に理解するための知識と方法を学びます。	心理病理学（精神医学）、環境心理学、児童・青年心理学、社会心理学、生涯発達心理学、等

学部	分　野	分野の概要	主 な 科 目
映像学部	映像	アート、テクノロジー、そしてビジネスの3つの側面から、映像を総合的にプロデュースする力の養成を目指します。	企画シナリオ創作論、印刷技術論、ミュゼオロジー研究、視覚芸術論、写真学概論、日本文化と国際交流、文芸（物語）理論、映像作品研究Ⅰ・Ⅱ、等

〈びわこ・くさつキャンパス〉

学部	分野	分野の概要	主な科目
経済学部	経済戦略	経済学の応用理論や経済政策を学び、経済分析の手法に習熟することにより、企業や行政機関において必要な戦略・政策を企画・実行する能力の育成をめざします。	経済戦略論Ⅰ・Ⅱ、公共経済学、組織と制度の経済学、金融政策論、地方財政論、環境経済学1、数理経済学Ⅰ・Ⅱ、産業組織論、ゲーム理論、地域経済論、企業と雇用システム、情報経済論、オープンマクロ経済学、マクロエコノミック・ダイナミクス、等
	ヒューマン・エコノミー	福祉、雇用、年金、医療、環境、地域など生活に関わりの深いテーマを取り上げて、これらの諸問題を総合的な視点から解明・解決するための知識と方法の修得をめざします。	ヒューマン・エコノミー論Ⅰ・Ⅱ、生活経済論、福祉経済論、観光経済論、労働経済論、サービス経済論、食糧経済論、地域経済論、保険経済論、医療経済論、平和の経済学、文化経済学、環境経済学1、地域福祉論、等
	金融経済	金融に関する理論、知識を学び、金融市場のデータ分析手法を身に付けることにより、広く金融に精通する能力の獲得をめざします。	財務諸表論、金融政策論、行動経済学、保険経済論、リスク管理論、フィナンシャルエコノミクス、金融法、企業税務論、オープンマクロ経済学、等
	環境・都市地域	経済学の基礎に理工学的な視点を加え、環境問題や都市・地域問題を考察することにより、企業や行政機関で環境・都市問題の解決策を提案できる能力の育成をめざします。	環境科学、環境経済学1・2、環境法、環境経済評価論、環境・開発論、環境経営論、食糧経済論、農業経済論、地方財政論、地域経済論、等
	国際経済	高度な外国語運用能力、幅広い国際経済の知識、国際経済学の素養を身につけ、国際経済問題の解決を提案できる能力の育成をめざします。	国際金融市場論、比較経済論、アメリカ経済論、アジア経済論、国際技術移転論、国際取引法、EU経済論、中国経済論、ロシア経済論、多国籍企業論、国際経済協力論、開発教育論、開発経済学、ODA・国際援助論、環境・開発論、国際経済機構論、途上国経済論、エリアスタディ特殊講義、等
スポーツ健康科学部	スポーツ科学	自然科学的な観点からスポーツを理解するとともに、その理論を実践へ活かすスキルを学びます。	スポーツサイバネティクス論、スポーツ医工学、エクササイズプログラミング論、スポーツバイオメカニクス論、スポーツ生理学、スポーツ生化学、等
	健康運動科学	健康の維持・増進のために、運動がどのような役割を果たすかを理解し、健康にかかわる具体的なプログラムについて学びます。	生活習慣病論、運動処方論、健康増進科学、運動生理学、健康運動指導論、健康施策論、等
	スポーツ教育学	保健体育教員、競技スポーツや健康教育の指導者にかかわる指導スキルを学びます。	スポーツ栄養教育学、スポーツカウンセリング論、スポーツ指導論、スポーツ教育学、アダプテッドスポーツ論、学校保健学、等
	スポーツマネジメント	スポーツ関連組織の運営を効率的に行う方法について学びます。	スポーツビジネス論、スポーツマーケティング論、スポーツメディア論、スポーツ政策論、組織マネジメント論、サービスマネジメント論、等

※理工学部、情報理工学部、生命科学部の開講科目については、各学部事務室へ問い合わせてください。

〈大阪いばらきキャンパス〉

学部	分野	分野の概要	主な科目
経営学部	国際経営	外国語でビジネスを理解するための高度な外国語運用能力と国際理解力、経営学の専門知識を修得。グローバル化がますます進展するこれからの社会において、国際ビジネスを自ら生み出す力を磨きます。	国際経営論、近代アジア経済史、アジアの産業と市場、異文化マネジメント論、多国籍企業論、企業文化論、日中ビジネス論、国際マーケティング論、アジア経営論、国際経営戦略論、Cross-Cultural Management Research、International Accounting、International Corporate Culture、International Human Resource Management、International Industries、International Strategic Management、Strategic Marketing　等
	戦略とマーケティング	経営戦略とマーケティングを体系的に学修し、企業と外部環境とのかかわりへの理解を深めます。近年、企業において重要視されてきているデザイン・マネジメントについて学ぶこともできます。	経営戦略論、戦略経営論、イノベーション戦略論、企業ネットワーク論、流通論、交通システム論、デザイン経営論、マーケティング・マネジメント、メディア･デザイン論、製品開発論、サービス・マーケティング論、広告論、消費者行動論、観光システム論　等
	組織とマネジメント	組織とマネジメントを体系的に学修し、心理学にもとづく分析やリーダーシップ論も交えながら、企業の内部組織と管理運営への理解を深めます。近年、社会において重要性を増してきているNPOなど非営利組織のマネジメントについて学ぶこともできます。	企業論、経営組織論、経営史、組織行動論、中小企業論、非営利組織論、比較企業論、企業倫理論、比較経営史、技術経営論、アントレプレナーシップ論、事業開発論、ベンチャー企業論、経営情報論、人的資源管理論、技術革新論、生産システム論、環境経営論、情報システム論、産業技術論、商法、会社法、労働法、税法　等
	会計とファイナンス	会計とファイナンスを体系的に学修し、企業における情報の役割や金融市場への理解を深めます。近年、注目されている国際会計基準の動きなどについて学ぶほか、経済学を用いた学びも行うことができます。	会計学、企業分析論、会計制度論、財務会計論、管理会計論、連結会計論、原価計算論、監査論、資金調達論、金融論、証券投資論、ベンチャーファイナンス、金融システム論、国際金融論、ミクロ経済学、マクロ経済学、組織の経済学、日本経済論、世界経済論　等
政策科学部	公共政策系	行政機関の活動は、住民や企業など広範囲に影響を及ぼすため、政策の立案・実施にはバランス感覚と広い視野が必要です。公共政策系では、公共政策が実現されるプロセスを理解するとともに、政治学や法律学などさまざまな側面から実際の政策事例まで学びます。	グローバル・ガバナンス、政治過程論、政策過程論、政治文化論、情報社会論、公共哲学、国際機構論、情報技術マネジメント、行政法Ⅰ･Ⅱ、比較文化論、日本政治史、国際公共政策、現代政治理論、意思決定論、政治意識論、行政学Ⅰ･Ⅱ、地域政策論、Multi-level Governance Ⅰ～Ⅷ　等
	環境開発系	大量生産・大量廃棄の経済システム、地域格差など、さまざまな要因が絡む環境開発問題。公害など地域の問題から、貧困と紛争など地球レベルの課題まで、社会科学と自然科学の両面からアプローチを行い、持続可能な社会の実現に取り組みます。	資源エネルギー論、システム科学、住宅政策論、都市・環境法、都市計画、環境経済学、エコライフ政策、国際環境政策、都市景観論、開発経済論、環境経営論、環境社会学、まちづくり入門、戦略的環境アセスメント、サステイナビリティ学入門、都市マネジメント論、Sustainable Urban Policy Ⅰ～Ⅷ　等
	社会マネジメント系	経済政策の理論や経営戦略、高齢化社会における福祉課題やジェンダー問題など、多様な領域をカバーするカリキュラムを設定。ビジネスの最前線、NPOや行政機関など、政策の現場でリーダーとなる人材を育てます。	現代の福祉問題、企業組織論、地方財政論、非営利組織論、都市経済論、国際政治経済論、比較福祉社会論、経済政策、公共経済学、戦略経営論、戦略分析、財務分析、社会保障政策、地域経済論、消費者行動論、金融論、コミュニティ福祉論、組織ネットワーク論、パブリック・マネジメント論、福祉経済論、Regional Economy and Development Ⅰ～Ⅷ　等

学部	分野	分野の概要	主な科目 ※１・２回生配当科目のみ
総合心理学部	認知・行動	人の心のはたらきと行動の仕組みを、実験的方法を用いて科学的に探求し、人間そのものの理解を深めます。 例えば、人間がどのように環境を認識し、情報を記憶して判断を行ったり思考したりするのかなどについて学びます。	認知心理学概論、行動分析学、生理心理学、思考心理学、認知心理学、知覚心理学、学習・記憶心理学、応用行動分析学
	発達・支援	乳幼児期から高齢期まで人間の発達について、生物的次元から社会・文化的次元にわたる様々な知識を獲得し、発達のメカニズムを学びます。 例えば、生涯にわたる発達の多次元性、可塑性、発達経路の多様性、獲得と喪失をめぐる問題などを学びます。	発達心理学概論、乳幼児心理学、青年心理学、教育実践心理学、児童心理学、中高年心理学、進化心理学、発達臨床心理学
	社会・共生	自己と他者との関係、身近な地域やグローバル化する社会で発生する問題や紛争とその解決について、心のはたらきと行動の仕組みを探究する立場から理解します。 例えば、複雑化する社会における問題を心理学の立場から解明し、視点の対立、利害の対立から生じる紛争や対立を共生へと転換する方法などを学びます。	社会心理学概論、実践社会心理学、コミュニティ心理学、臨床社会心理学、メディア心理学、法心理学、衣食美心理学
	総合人間理解	人間についての様々な見方や多様な研究を学習することによって、心理学以外の人間観を理解し、総合的に人間を理解する力を養います。 また、心理学的知見を人文・社会科学など他の分野の知見と関係づけて、現代の人間をめぐる様々な課題の解決のために総合的な視点でアプローチする力を養います。	現代人間論、人間観の探求、政治と人間、経済と人間、家族と人間、組織と人間
	共通専門	心理学の基礎的な知識、研究方法、技能などを身に付ける科目群です。 心理学の様々な分野において必要となる基礎的事項を学びます。	臨床心理学概論、心理調査法概論、心理学研究法Ⅰ、心理学研究法Ⅱ、心理学研究法Ⅲ、心理学史

大学院　科目等履修生制度について

立命館大学では、社会人、市民のみなさんの学問的・実学的興味・関心にこたえるものとして、科目等履修生制度を設けています。本学の科目等履修生を志望される方は、以下の諸点にご留意のうえ、所定の手続きを行ってください。

なお、科目等履修生制度とは別に、単位の取得を目的としない聴講生制度を設けています。こちらを志望される方は、「聴講生出願手続要項」をご覧ください。

Ⅰ．科目等履修生制度の概要

１．科目等履修生制度とは

大学院科目等履修生制度は、科目等履修生として授業を履修し、所定の要件を満たすと単位を修得できる制度です。

２．2017 年度に科目等履修生の受入を行う研究科

衣笠キャンパス	法学研究科、社会学研究科、国際関係研究科、文学研究科、映像研究科、応用人間科学研究科、言語教育情報研究科、先端総合学術研究科
びわこ･くさつキャンパス（BKC）	経済学研究科、理工学研究科、情報理工学研究科、生命科学研究科、スポーツ健康科学研究科
朱雀キャンパス	公務研究科、法務研究科、教職研究科
大阪いばらきキャンパス（OIC）	経営学研究科、政策科学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科（※ 1）、経営管理研究科（※ 2）

※１　テクノロジー･マネジメント研究科の一部の科目を立命館大阪梅田キャンパスで開講しています。詳細は当該研究科の事務室にお問い合わせください。

※２　経営管理研究科については、独自の科目等履修生出願要項がありますので、そちらをご覧ください。

３．履修科目

⑴　履修科目

本学で開講している科目の中から、志望する科目を履修できます。ただし、外国語、演習、研究入門、講読、実験、実習等定員の定められている科目等は履修できません。

また、教員免許状取得を目的として科目等履修生制度を利用する場合は、本要項の P.21 をご覧ください。

また、中学校あるいは高等学校教員の一種免許状を有している方で、専修免許状の取得のための所要資格を希望される場合は、様々な要件がありますので、事前に該当する研究科事務室にご相談ください。

⑵　シラバス（講義概要）および時間割

科目等履修生が履修できる科目のみのシラバスおよび時間割はありませんので、3 月中旬の時間割が確定する時期以降に履修を志望する研究科事務室にて、開講予定科目を確認してください。なお、シラバスは、立命館大学のホームページで 3 月 10 日（金）午前 10 時から確認できます。

〔立命館大学シラバス〕

「立命館大学ホームページ→在学生の方→シラバス→学外向け」

４．履修できる単位数

当該年度に履修できる単位数は、12 単位（複数研究科にまたがって履修する場合も含む）が上限です。

５．授業時間

第１限 （1・2 時限）	第２限 （3・4 時限）	第３限 （5・6 時限）	第４限 （7・8 時限）	第５限 （9・10 時限）	第６限 （11･12 時限）	第７限 （13･14 時限）
9：00～10：30	10：40～12：10	13：00～14：30	14：40～16：10	16：20～17：50	18：00～19：30	19：40～21：10

※（　　）内は理工学研究科・情報理工学研究科・生命科学研究科の時限を表します。
※立命館大阪梅田キャンパスで開講する科目の授業時間は当該研究科事務室にて確認してください。

Ⅱ．出願手続

１．出願資格

各課程の出願資格は、下記の⑴～⑵の通りです。

⑴　大学院修士課程、大学院博士課程前期課程、大学院一貫制博士課程（先端総合学術研究科）1 年次および 2 年次または大学院専門職学位課程の授業科目の履修を志望する場合

次の各号のいずれかに該当する者とする。

①　本学大学院学則第 52 条に規定する大学院の入学資格を有する者

②　履修しようとする授業科目について、履修に必要な学力があると研究科長が認めた者

注：法務研究科においては、上記に加え、法律を扱う職業に従事した経歴を考慮して選考します。

大学院学則第 52 条
⑴　大学を卒業した者
⑵　大学を卒業した者と同等以上の学力を有する者として、学校教育法施行規則第 155 条第 1 項に規定された者
⑶　大学に 3 年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、各研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認めた者

⑵　大学院博士課程後期課程または大学院一貫制博士課程（先端総合学術研究科）3 年次から 5 年次までの授業科目の履修を志望する場合

次の各号のいずれかに該当する者とする。

①　本学大学院学則第 53 条に規定する大学院の入学資格を有する者

②　履修しようとする授業科目について、履修に必要な学力があると研究科長が認めた者

大学院学則第 53 条
⑴　修士の学位を有する者
⑵　専門職学位を有する者
⑶　修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力を有する者として、学校教育法施行規則第 156 条に規定された者

※各課程に共通する事項として、外国籍の方の場合は、履修の期間に相当する日本国の在留資格を有することが必要です。なお、在留資格が「留学」の場合は、履修時間数の要件がありますので、詳しくは各キャンパス国際教育センターで確認してください。
※他の大学、短大ならびに大学院に在籍しながら（通信教育を含む）履修を志望される方は、所属する大学（短大・大学院）の許可書を提出してください（許可書は自由書式）。

２．出願受付場所

各研究科事務室
※ただし、政策科学研究科、経営学研究科への出願は OIC 学びステーションで受付けます。

３．出願受付期間

前期　　3 月 22 日（水）～ 3 月 24 日（金）　13：00 ～ 17：00
後期　　・後期に 2017 年度はじめて出願する場合

8月28日（月）～8月30日（水） 13：00～17：00

・本学を当該年度前期に卒業・修了して後期にはじめて出願する場合または前期より引き続き履修する場合で後期科目を登録・取消する場合

9月6日（水）～9月8日（金） 13：00～17：00

4．出願書類

⑴ 科目等履修願および科目等履修受講科目申請票（本要項の裏表紙のもの）1枚

⑵ 大学院科目等履修志望理由書（本要項に綴じ込みのもので500字程度）1枚

⑶ 最終学歴の卒業・修了証明書（出願資格を証明するもの）1枚

なお、最終学歴が以下の場合、大学卒業証明書も併せて必要です。（飛び級制度により大学を卒業せずに大学院へ入学した場合は各研究科事務室へ相談してください。）

大学院修士課程、大学院博士課程前期課程、大学院博士課程後期課程

大学院一貫制博士課程、大学院専門職学位課程、大学院四年制博士課程

⑷ 学生証写真貼付用紙（本要項に同封のもの）1枚

「Ⅰ．学生情報」に、上記⑴「科目等履修願および科目等履修受講科目申請票」に記載した研究科名（複数の研究科にまたがって申請する場合でも、1つの研究科名）を記入してください。また、生年月日、氏名、アルファベット表記（留学生のみ）を記入してください。

⑸ 個人情報の取扱いに関する同意書（本要項に綴じ込みのもの） 1枚

立命館大学では、個人情報保護に関する法令およびその他の規範を遵守するために、「学校法人立命館個人情報保護基本方針」を定め、個人情報の適切な管理運用を行っています。後掲の「立命館大学における個人情報の取扱いについて」を熟読のうえ、必要事項を記入してください。

⑹ 外国籍の方は、履修の期間に相当する日本国の在留資格を有することを証明する在留カード、特別永住者証明書のいずれかの写し

⑺ 他の大学、短大ならびに大学院に在籍しながら（通信教育を含む）履修を希望する場合は、所属する大学（短大・大学院）の許可証（許可証は自由書式）

※⑴「科目等履修願」と⑷「学生証写真貼付用紙」に貼付する写真は、最近3ケ月以内に撮影したカラー顔写真〈タテ3cm×ヨコ2.4cm〉としてください。

5．科目等履修生選考料

【選考料】10,000円（証紙）

※立命館生協または証明書自動発行機で証紙を購入し、提出してください。

※選考料は、履修科目が複数研究科にまたがる場合であっても10,000円です。

※学部と研究科にまたがって出願する場合は、両方の選考料が必要です。

※いったん納入された選考料は、理由のいかんにかかわらず返還しません。

【証紙販売場所（立命館生協）】

衣笠	至徳館購買部	営業時間は時期により異なります。 立命館生協ホームページでご確認ください。 http://ritsco-op.jp 立命館生協 検索
	存心館・ブックセンター「ふらっと」	
BKC	ユニオンスクエアショップ	
	リンクスクエアショップ	
朱雀	立命館生協朱雀店	
OIC	OIC Shop	

6．出願上の注意

⑴　履修を申請する科目が複数の研究科にまたがる場合は、当該の研究科事務室と相談のうえ、指定された研究科の事務室に出願書類を提出してください。

⑵　いったん履修を許可された授業科目の取消はできません。ただし、前期の出願時に許可された後期科目については、取消を認めることがあります。

Ⅲ．選考および判定結果の通知

1．選考方法

書類選考、面接のほかに、論文試験を行う場合があります。

2．判定結果の通知

前期の判定結果の通知

判定日　3月31日（金）

※判定後「許可通知」または「不許可通知」を送付します。

※前期の授業開始日は4月6日（木）です。

ただし、以下の研究科は開始日が異なります。

テクノロジー・マネジメント研究科、経営管理研究科：4月5日（水）

法務研究科：4月5日（水）

後期の判定結果の通知

8月28日～8月30日受付分の判定日　8月30日（水）の週

9月6日～9月8日受付分の判定日　9月12日（火）

※判定後「許可通知」または「不許可通知」を送付します。

※後期の授業開始日は9月26日（火）です。

Ⅳ．登録手続

下記の納入手続締切日までに登録料・科目等履修料を全額納入してください。期日までに手続が完了しない場合は、許可を取り消します。

1．登録料および科目等履修料

【登録料】

本大学出身者（※）	18,000円
その他	36,000円

※本大学出身者とは本学卒業生、修了生をいいます（中途退学者、除籍者および在籍者を含む）。

※複数の研究科に許可された場合、許可された研究科ごとに登録料を納入する必要はありません。

【科目等履修料】（1単位につき）

法学・経済学・経営学・社会学・国際関係・文学・政策科学・スポーツ健康科学・応用人間科学・言語教育情報・先端総合学術・法務・公務・教職の各研究科の科目	理工学・情報理工学・生命科学・テクノロジー・マネジメント・映像の各研究科の科目
21,400円	31,500円

2．納入手続締切日

前期に許可を受けた場合の納入手続締切日　4月14日（金）

後期に許可を受けた場合の納入手続締切日

・8 月 28 日～ 8 月 30 日出願分　許可通知書で確認してください（許可判定日から 2 週間以内）
・9 月 6 日～ 9 月 8 日出願分　9 月 26 日（火）

3．登録料・科目等履修料の納入に関わる留意事項

登録料・科目等履修料の納入にあたっては、分割納入はできませんので、あらかじめ所定の金額をご用意いただき､許可通知とともに同封してある振込用紙を使って納入してください。一度納入された登録料･科目等履修料は理由のいかんにかかわらず返還しません。ただし、後期科目の取消を行う場合のみ、科目等履修料を返還します（前期科目・夏期集中科目の取消の場合は返還しません)。

Ⅴ．後期科目の登録追加および取消

すでに前期の時点で科目等履修生の許可を受けている方で、後期科目の登録追加および取消を行う場合は､「後期授業科目追加および取消申請書」を学部・研究科事務室で受領のうえ、下記の期間内に手続きを行ってください。後期科目の追加は、前期に履修した科目（前期に履修し不合格になった科目も含む）と合わせて 12 単位を超えない範囲で手続きしてください。

1．後期科目を追加する場合

前期出願時の登録単位数より単位数が増加しますので、科目等履修料の納入が必要です。

2．後期科目の取消の場合

前期出願時の登録単位数より単位数が減少しますので、納入された科目等履修料を返還します。

3．後期科目の追加と取消の両方を行う場合

後期科目の追加と取消の両方を行い、前期出願時の登録単位数より単位数が増加する場合は科目等履修料の納入が必要となり、前期出願時の登録単位数より単位数が減少する場合は納入された科目等履修料を返還します。

また、後期科目の追加と取消により登録単位数に変更がない場合でも、1 単位あたりの科目等履修料によって、科目等履修料の追加納入または返還が生じる場合があります。

例：前期登録時に、法学研究科の科目を前期 2 単位、後期 2 単位登録していた者が、法学研究科の後期 2 単位を取り消し、映像研究科の科目 2 単位を新たに追加登録する場合
21,400 × 4 単位 = 85,600 円　→　21,400 円× 2 単位 + 31,500 円× 2 単位 = 105,800 円
この場合、20,200 円の追加納入が必要となる。

4．手続き

⑴　後期科目の追加および取消の申請期間：9 月 6 日（水）～ 9 月 8 日（金）　13：00 ～ 17：00
⑵　後期の判定結果の通知：9 月 12 日（火）
⑶　追加で履修料の納入が必要な場合の納入手続締切日：9 月 26 日（火）
⑷　履修料の返還について：「後期授業科目追加および取消申請書」の申請内容が認められ、科目等履修料の返還が生じる場合は､後日､本学財務経理課より「過納学費返金案内」を送付します。

※申請期間内に提出がなかった場合は、科目等履修料の返還はできません。
※後期科目を取り消すことにより、後期登録科目が無くなる場合は、科目等履修生証を返還してください。

Ⅵ. 科目等履修をはじめるにあたって

１．科目等履修生証の交付

選考の結果、許可となり指定期間内に所定の手続き（登録料・科目等履修料の納入を含む）の完了した者を本学の科目等履修生とし、「科目等履修生証」を交付します。

２．試験および単位修得

科目等履修生は、許可された授業科目について試験を受験することができ、所定の要件を満たせば、単位を修得することができます。科目等履修生で修得した単位は、本学大学院の正規課程へ入学した場合に、入学後の単位として認定することがあります。認定する単位数には上限があります。

成績評価は、筆記試験によるほか、課題レポートによる場合や日常の授業時の発表による場合があります。詳細は、シラバスで確認してください。

３．RAINBOW ユーザー ID 通知書の交付

情報教室やマルチメディアルームでパソコンを利用するためのユーザー ID とパスワードを交付します。申請の必要はありません。なお、前年度通年あるいは後期より引き続き科目等履修生として許可された場合は、ユーザー ID とパスワードは同じものをそのまま継続して使用できます（新規交付は行いません）。

４．休講や補講などの授業情報

休講や補講などの授業情報は、CAMPUS WEB で確認してください。CAMPUS WEB にログインするには、立命館大学ホームページの「在学生の皆さまへ」ページからアクセスしていただき、RAINBOW ユーザー ID とパスワードを入力してください。

５．学内施設の利用

科目等履修生は、本学図書館、メディアライブラリーおよびメディアセンター、情報教室およびマルチメディアルームの利用ができます。

６．証明書の交付

科目等履修生は必要により、「科目等履修生証明書」および「成績証明書」の交付を受けることができます。なお、通学定期券の購入等のために「通学証明書」および「学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）」の交付を受けることはできません。

７．諸規則の遵守

科目等履修生は、本大学の諸規則を守らなければなりません。科目等履修生が本大学の諸規則に反する行為または科目等履修生として相応しくない行為を行った場合は、科目等履修生の身分を剥奪し、授業科目の履修を中止します。

８．その他の留意事項

⑴　科目等履修生は、単年度ごとの在籍となりますので、次年度も志望される場合はあらためて出願しなければなりません。年度ごとに選考料・登録料・科目等履修料が必要となります。

⑵　本学では自動車通学を禁止しています。また、バイク・自転車通学をする場合は、登録手続きが必要ですので、各キャンパスの以下のところでお問い合わせください。

①　朱雀キャンパス　中川会館１階　キャンパス管理室

② 衣笠キャンパス　至徳館１階　キャンパスインフォメーション
③ びわこ・くさつキャンパス　コアステーション１階　キャンパス管理室
④ 大阪いばらきキャンパス　Ａ棟１階　キャンパスインフォメーション
※バイクは 125cc 以下に限定されます（OIC のみ）。

(3) 科目等履修生には、本学の課外活動への参加を認めていません。

教員免許状取得を目的とする場合

Ⅰ．はじめに

2017 年度現在、本学で文部科学省から課程認定を受けている校種・教科は以下の通りです。
専修免許状については、希望する研究科の事務室へお問い合わせください。

学部・学科		中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状	その他 一種免許状
法学部　法学科		社会	地理歴史・公民	—
経済学部　経済学科		社会	地理歴史・公民	—
経営学部	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業	—
	国際経営学科	社会	地理歴史・公民・商業	—
産業社会学部	現代社会学科（現代社会専攻）	社会・保健体育	地理歴史・公民・保健体育	特別支援学校
	現代社会学科（メディア社会専攻）	社会・保健体育	地理歴史・公民・保健体育	特別支援学校
	現代社会学科（スポーツ社会専攻）	社会・保健体育	地理歴史・公民・保健体育	特別支援学校
	現代社会学科（人間福祉専攻）	社会・保健体育	地理歴史・公民・保健体育	特別支援学校
	現代社会学科（子ども社会専攻）	—	—	小学校
国際関係学部　国際関係学科		社会	公民	—
政策科学部　政策科学科		社会	公民・情報	—
文学部　人文学科		社会・国語・英語	地理歴史・公民・国語・英語	—
映像学部　映像学科		—	情報	—
理工学部	数理科学科	数学	数学・情報	—
	物理科学科	理科	理科	—
	電気電子工学科	—	工業・情報	—
	電子情報工学科	—	工業・情報	—
	機械工学科	—	工業	—
	ロボティクス学科	—	工業	—
	都市システム工学科	—	工業	—
	環境システム工学科	—	工業	—
	建築都市デザイン学科	—	工業	—
情報理工学部　情報理工学科		—	情報	—
生命科学部	応用化学科	理科	理科	—
	生物工学科	理科	理科	—
	生命情報学科	理科	理科	—
	生命医科学科	理科	理科	—
スポーツ健康科学部　スポーツ健康科学科		保健体育	保健体育	—
総合心理学部　総合心理学科		—	公民	—

※「特別支援学校」の免許状取得については、基礎資格が「学士の学位を有すること及び小学校、中学校、高等学校または幼稚園の教諭の普通免許状を有すること」となっています。

※以下の学部・学科においては、2017 年度より課程認定を取り下げています。2016 年度以前に以下の学部・学科に在籍し、教職課程履修希望の方は、各学部事務室へお問い合わせください。

・経済学部の国際経済学科（学科廃止により社会科・地理歴史科・公民科の課程認定取り下げ）
・情報理工学部の情報システム学科・情報コミュニケーション学科・メディア情報学科・知能情報学科（学科廃止により数学科・情報科の課程認定取り下げ）
・生命科学部の応用化学科・生物工学科（工業科の課程認定取り下げ）
・生命科学部の生命情報学科（情報科の課程認定取り下げ）

1. 科目等履修生の受け入れについて

教職課程の履修を希望する場合、免許状取得後の計画を含め、しっかりとした目的意識をもって履修することが求められます。本学での履修可否判断にあたっては、履修計画とキャリアプランを総合的に判断いたします。

本学では、課程認定を受けている全ての学部・学科で教職課程履修を目的とした科目等履修生を受け入れているわけではありません。また、受け入れを行う学部・学科であっても免許状取得に必要な全ての科目の履修を認めているわけではありません。教科によっては本学での履修のみで免許状所得に必要な単位を充足することができない場合があります。

また、定員や受講要件を設けている科目があり、出願しても許可されない場合があります。（許可された場合でも、科目によっては受講者5名未満により閉講となる可能性があります。詳しくは、出願予定学部事務室へ問い合わせてください。）

2. 3回生以上配当科目の受講条件

本学教職課程科目のうち「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」の3回生以上配当科目を履修するためには、「教育職員免許法施行規則」第6条に定める、第2欄から第4欄の「教職に関する科目」を20単位以上履修していることが必要です。本学出身者は本学で定める科目のうちから20単位以上履修済みであることが要件です。

※本学の2006年度カリキュラムは、2014年度末をもってすべて閉講となりました。

3. 実習科目の履修について

各種実習科目は、科目等履修生であっても本学学生として実習していただきます。実習までに必要な手続きを行わない場合（遅延を含む）や、本学学生としてふさわしくない実習態度が見られる場合、原則として実習を中止していただきます。（履修料の返金等はいたしません。）

各種手続きは、原則として窓口にて直接行っていただきます。特段の配慮はいたしません。

実習科目の詳細は、後述の「Ⅳ.実習科目の受講を希望する方へ」を確認してください。

4. 免許状取得にあたっての留意事項

科目等履修制度により単位を修得した場合、免許状の申請は各自が教育委員会にて手続きをする「個人申請」となります。「教育職員免許法」および「教育職員免許法施行規則」にもとづく免許状取得に必要な分野および単位数は、ご自身で確認していただく必要があります。出願に先立ち、出身大学・学部の事務室にて教員免許状取得にかかわる単位修得状況を確認のうえ出願して下さい。

なお、科目等履修生の「教育職員免許状取得見込証明書」は発行しておりません。

5. 免許更新制について

教員は、高い専門性とともに実践的指導力やコミュニケーション能力が問われます。「教員免許更新制」により、教員免許には10年間の有効期限が明記され、10年ごとに更新しなければ効力を失います。（特に、既に何らかの教員免許状をお持ちの方で、追加で他の免許状の取得を考えておられる場合は、お手元の免許状の有効期限を確認してください。）

Ⅱ. 提出書類

教員免許状取得を目的として本学の科目を履修する場合は、2ページの出願書類に加え、以下の書類を提出してください。2ページの出願書類のうち「学部科目等履修志望理由書」「大学院科目等履修志望理由書」には、希望する免許種を明記の上、学修計画とともに免許取得後の計画についても記載してください。

⑴ 「自己申告票①」（全員）
⑵ 「自己申告票②」（全員）
　複数の教科の免許状取得を希望される場合は、必要な数だけコピーをして作成の上ご提出ください。
⑶ 「学力に関する証明書」※平成 10 年改正法に合わせて作成されたもの
　「学力に関する証明書」は発行までに数日を要します。出身大学･学部事務室に問い合わせ、余裕を持って申請してください。本学を卒業後、引き続き出身学部で履修する場合や、本学在学中の場合は提出不要となるケースがありますので事前に出願予定学部にお問い合わせください。
　出願前に出身学部以外の学部で履修相談をされる場合は、かならず「学力に関する証明書」（「写し」可）をご持参ください。
⑷ 過去 2 年以内に受験した TOEFL® テストもしくは TOEIC® L & R テスト（※）のスコアの写し
（中学校・高等学校一種「英語」免許状の取得を志望する場合）
⑸ 履修カルテ（「教職自己分析シート」）の写し
（「（教）学校教育演習」「（教）教職実践演習（中・高）」の履修を希望する場合）
※ L & R は LISTENING AND READING の略称です。

なお、提出書類に虚偽があり、受講要件を満たしていないことが判明した場合は、いったん受講を許可した科目であっても、受講許可を取り消します。

Ⅲ．特に注意が必要な事項について

⑴ 「小学校一種」免許状取得について
　産業社会学部子ども社会専攻の卒業生、および本学在学中に産業社会学部子ども社会専攻の小学校一種免許状取得に必要な科目の履修を特別に認められていた者に限り出願を認めています。
⑵ 中学校・高等学校一種「保健体育」免許状取得について
　産業社会学部では、本学産業社会学部在学中に中学校・高等学校一種「保健体育」の課程を履修していた者および、本学在学時に産業社会学部以外に在籍しながら産業社会学部の科目等履修生として、中学校・高等学校一種「保健体育」の課程科目の履修を許可されていた者に限り出願を認めています。出願受付までに産業社会学部事務室に相談してください。
　スポーツ健康科学部では、本学スポーツ健康科学部在学中に中学校・高等学校一種「保健体育」の課程を履修していた者に限り出願を認めています。出願受付開始までにスポーツ健康科学部事務室に相談してください。
⑶ 「特別支援学校一種」免許状取得について
　産業社会学部の「特別支援学校一種免許状」の課程におかれている領域は「知的障害者」「肢体不自由者」「病弱者」の 3 領域です。視覚障害者、聴覚障害者に関する領域はありません。
⑷ 中学校・高等学校一種「英語」免許状について
　文学部が課程を有している中学校・高等学校一種「英語」の免許取得に必要な科目は、高い英語の運用能力が求められます。客観的な英語の運用能力を把握するために、TOEFL® テストもしくは TOEIC® L & R テストのスコア（写）の提出が必要となります。出願受付期間開始の 2 週間前までに、文学部事務室に相談してください。
　「（教）英会話Ⅰ」、「（教）英会話Ⅱ」の科目は受講人数を制限しているため、前期開講クラスは受講できません。後期開講クラスの定員に空きがある場合のみ、後期に出願を受け付けます。
　後期にはじめて出願する場合と後期授業科目を追加する場合では出願受付期間が異なりますのでご注意ください。
⑸ 定員の定めのある「（教）」科目については、希望クラスでの受講が認められないことがあります。

Ⅳ．実習科目の受講を希望する方へ

※産業社会学部子ども社会専攻の卒業生で、初等教育実習の受講を希望する方は、あらかじめ産業社会学部事務室へ相談してください。

１．教育実習

⑴　受講要件

・「(教) 教育実習の研究（事前指導)」「(教) 教育実習Ⅰ（事後指導を含む)」「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む)」は、本学在学生および卒業生にのみ履修を認めています。

・「(教) 教育実習Ⅰ（事後指導を含む)」「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む)」の履修にあたっては、以下のすべての要件を必要とします。

①実習年度中に実習希望校種・教科の教員免許状を取得見込みであること

②「(教) 教育実習の研究（事前指導)」の単位を修得済みであること

③あらかじめ教育実習受け入れ校を確保できていること

④2013 年度以降に「(教) 学校教育演習」の単位を修得済み、または 2012 年度以前に「総合演習」の単位を修得済みであること（＊）

＊「(教) 学校教育演習」(3 回生配当科目) は法定必修科目ではありませんが、本学で「(教) 教育実習Ⅰ（事後指導を含む)」「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む)」を履修する場合はその前年度までに単位を修得する必要があります。

⑵　受講にあたっての留意点

・本学の「教育実習」は、実習前年度の事前指導と合わせて、単位修得まで少なくとも 2 年間の履修期間が必要です。

・「(教) 教育実習の研究（事前指導)」の単位修得後、履修を継続せずあらためて「教育実習」の履修を希望する場合は、「教育実習」受講前年度の指定された期間に、必ず教職教育課（衣笠キャンパス）に申し出て許可を得てください。

・「(教) 教育実習Ⅰ（事後指導を含む)」「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む)」は、それぞれ教育実習のほか、教育実習直前ガイダンス（4 月）および教育実習事後指導（11 月中旬予定、大阪いばらきキャンパスは 12 月予定）への出席が必要です。

・「初等教育実習」は産業社会学部子ども社会専攻の在学生、卒業生および本学在学中に産業社会学部子ども社会専攻の小学校一種免許状取得に必要な科目の履修を特別に認められた者にのみ履修を認めています。受講希望者は、あらかじめ産業社会学部事務室に相談してください。

⑶　教育実習履修料等について

・「(教) 教育実習の研究 (事前指導)」を履修する場合は、科目等履修料とは別に教育実習履修料 (5,000 円）が必要です。

・「教育実習」は、実習校に支払う実習費が必要となる場合があります。実習校の指示にしたがい、実習費を納める必要があります。

２．特別支援教育実習

⑴　受講要件

・「(教) 特別支援教育実習（事前・事後指導を含む)」の履修にあたっては、以下の全ての要件を必要とします。

①実習年度中に特別支援学校一種免許状を取得見込みであること

②基礎となる免許状（幼稚園・小学校・中学校・高等学校の普通免許状）を取得済み、または実

習年度中に取得見込みであること
③「(教) 知的障害教育課程論Ⅰ」および「(教) 知的障害教育課程論Ⅱ」の単位を修得していること
④あらかじめ特別支援教育実習受け入れ校を確保できていること

(2) 受講にあたっての留意点
・本学では、小学校免許状取得希望者には「内諾活動ガイダンス」(実習前年度の4月実施) において、中学校・高等学校普通免許状取得希望者には「(教) 教育実習の研究 (事前指導)」(実習前年度実施) の授業において、特別支援教育実習受け入れ校の確保の手順等を説明しています。実習前年度の「内諾活動ガイダンス」または実習前年度の「(教) 教育実習の研究 (事前指導)」に出席していない方は、「特別支援教育実習」受講前年度の指定された期間に、必ず教職教育課 (衣笠キャンパス) に申し出てください。
・「(教) 特別支援教育実習 (事前・事後指導を含む)」は、教育実習のほか、教育実習事前指導4月中～下旬) および教育実習事後指導 (11月下旬予定) への出席が必要です。

(3) 教育実習履修料等について
・「(教) 特別支援教育実習 (事前・事後指導を含む)」を履修する場合は、科目等履修料とは別に実習前年度に教育実習履修料 (5,000円) が必要です。
・「特別支援教育実習」は、実習校に支払う実習費が必要となる場合があります。実習校の指示にしたがい、実習費を納める必要があります。

3. 介護等体験実習

(1) 受講要件
・「(教) 介護等体験 (事前指導)」「(教) 介護等体験実習」は本学在学生および卒業生にのみ履修を認めています。
・「(教) 介護等体験実習」の履修にあたっては、「(教) 介護等体験 (事前指導)」(2016年度までは「(教) 介護等体験の研究」) の単位を修得済みであることが必要です。

(2) 受講にあたっての留意点
・本学の「介護等体験実習」は、実習前年度の事前指導と合わせて、単位修得まで少なくとも2年間の履修期間が必要です。
・「(教) 介護等体験 (事前指導)」(2016年度までは「(教) 介護等体験の研究」) の単位修得後、履修を継続せずあらためて「介護等体験実習」の履修を希望する場合は、「介護等体験実習」受講前年度の指定された期間に、必ず教職教育課 (衣笠キャンパス) に申し出て許可を得てください。
・実習のための各種検査は、各自学外の医療機関で受診してください。本学保健センターは利用できません。

(3) 介護等体験履修料等について
・「(教) 介護等体験 (事前指導)」を履修する場合は、科目等履修料とは別に介護等体験履修料 (3,000円) が必要です。
・「介護等体験実習」は、介護等体験費用が必要になります。実習先の指示にしたがい、実習費を納める必要があります。

Ⅴ．本学在籍中の方への注意事項

「立命館大学学籍に関する規程」第 25 条により、本学の科目等履修生として教職課程の履修を希望する場合は、事前に所属学部・研究科の許可を受けなければなりません。許可を受けずに他学部の科目等履修生に出願した場合、科目等履修生としての諸手続が完了していても、その身分を剥奪し、授業科目の履修を中止します。

2017 年度　立命館大学　学年暦　学部

月	日	曜	学部行事
4	1	土	前期セメスター開始
			オリエンテーション
	2	日	入学式（衣笠・BKC・OIC）
	3	月	オリエンテーション
	4	火	オリエンテーション
	5	水	オリエンテーション
	6	木	前期セメスター授業開始
	15	土	授業日（水曜日分）　＊1
	29	土	昭和の日（統一補講日①）
5	3	水	憲法記念日（休日）
	4	木	みどりの日（休日）
	5	金	こどもの日（休日）
	13	土	授業日（金曜日分）　＊1
	19	金	本学創立記念日（授業日）
	20	土	統一補講日②
6	3	土	授業日（木曜日分）　＊1
	17	土	統一補講日③
7	15	土	統一補講日④
	17	月	海の日（授業日）
	19	水	前期セメスター授業終了
	20	木	統一補講日⑤
	21	金	前期セメスター定期試験開始
	22	土	定期試験日
	25	火	レポート試験統一締切日
	29	土	定期試験日
	31	月	前期セメスター定期試験終了
8	1	火	定期試験予備日・夏期休暇開始
	7	月	追試験日
	8	火	追試験日
	23	水	再試験（薬学部のみ）
	24	木	再試験（薬学部のみ）
	25	金	再試験（薬学部のみ）
	26	土	再試験（薬学部のみ）
	28	月	夏期集中講義（第1週）開始
9	2	土	夏期集中講義（第1週）終了
	4	月	夏期集中講義（第2週）開始
	6	水	前期卒業合否発表日
	9	土	夏期集中講義（第2週）終了
	14	木	夏期集中講義試験
	22	金	秋季オリエンテーション
	23	土	前期卒業式／秋分の日
	25	月	秋季入学式
			夏期休暇終了
			前期セメスター終了

月	日	曜	学部行事
9	26	火	後期セメスター開始
			後期セメスター授業開始
10	9	月	体育の日（授業日）
	14	土	授業日（月曜日分）　＊1
	28	土	統一補講日①
11	3	金	文化の日（授業日）
	18	土	統一補講日②
	23	木	勤労感謝の日（授業日）
12	9	土	統一補講日③
	23	土	天皇誕生日（統一補講日④）
	26	火	冬期休暇開始
1	4	木	冬期休暇終了
	5	金	後期セメスター授業再開
	8	月	成人の日（休日）
	18	木	後期セメスター授業終了
	19	金	統一補講日⑤
	20	土	後期セメスター定期試験開始・定期試験日
	23	火	レポート試験統一締切日
	27	土	定期試験日
	30	火	後期セメスター定期試験終了
	31	水	定期試験予備日・春期休暇開始
2	6	火	追試験日
	7	水	追試験日
	19	月	卒業合否発表日（薬学部のみ）
	20	火	再試験（薬学部のみ）
	21	水	再試験（薬学部のみ）
	22	木	再試験（薬学部のみ）
	23	金	再試験（薬学部のみ）
3	5	月	卒業合否発表日
	20	火	卒業式（衣笠）
	21	水	卒業式（朱雀・OIC）／春分の日
	22	木	卒業式（BKC）
	31	土	春期休暇終了
			後期セメスター終了

（注）開講・試験期間外での祝休日については省略

＊1：月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の授業日分について授業回数が不足するため、不足分授業日として土曜日に授業を実施します。

※休講（授業担当者の病気または避け難い理由等によるもの）した授業については、補講を行って頂きます。ただし、補講授業では、補講の重複等で講義 に出席できない場合に不利益を被らないためにも、補講授業での授業内テストや重要な発表・実習などの成績評価に強く影響する内容は実施しないでください。

※生命科学部・薬学部の一部授業においては、セメスターを半期に分け週1回の授業を実施します。

2017 年度　立命館大学大学院　学年暦 セメスター制

（法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、社会学研究科、文学研究科、国際関係研究科、政策科学研究科、応用人間科学研究科、先端総合学術研究科、言語教育情報研究科、公務研究科、スポーツ健康科学研究科、映像研究科、教職研究科、テクノロジー・マネジメント研究科）

月	日	曜	行　　事
4	1	土	前期セメスター開始
			オリエンテーション
	2	日	入学式
	3	月	オリエンテーション
	4	火	オリエンテーション
	5	水	オリエンテーション
	6	木	前期セメスター授業開始
	29	土	昭和の日（授業日）
5	3	水	憲法記念日（休日）
	4	木	みどりの日（休日）
	5	金	こどもの日（休日）
	19	金	本学創立記念日（授業日）
7	17	月	海の日（授業日）
	31	月	前期セメスター授業終了
8	1	火	夏期休暇開始
	28	月	夏期集中講義（第 1 週）開始
9	2	土	夏期集中講義（第 1 週）終了
	4	月	夏期集中講義（第 2 週）開始
	6	水	前期修了合否発表日（修士）
	9	土	夏期集中講義（第 2 週）終了
	22	金	秋季オリエンテーション
	23	土	前期学位授与式（修士）／秋分の日
	25	月	秋季入学式
			夏期休暇終了
			前期セメスター終了

月	日	曜	行　　事
9	26	火	後期セメスター開始
			後期セメスター授業開始
10	7	土	学位授与式（課程博士）
	9	月	体育の日（授業日）
11	3	金	文化の日（授業日）
	23	木	勤労感謝の日（授業日）
12	23	土	天皇誕生日（授業日）
	26	火	冬期休暇開始
1	4	木	冬期休暇終了
	5	金	後期セメスター授業再開
	8	月	成人の日（休日）
	31	水	後期セメスター授業終了
2	1	木	春期休暇開始
3	5	月	後期修了合否発表日（修士）
	20	火	学位授与式（修士）衣笠
	21	水	学位授与式（修士）OIC・朱雀／春分の日
	22	木	学位授与式（修士）BKC
	24	土	学位授与式（課程博士）･学位授与式（論文博士）
	31	土	春期休暇終了
			後期セメスター終了

（注）開講期間外での祝休日については省略

※補講等の予備日を以下のとおり設定します。

前期セメスター予備日：7 月 22 日（土）～ 25 日（火）、27 日（木）～ 31 日（月）

後期セメスター予備日：1 月 19 日（金）～ 21 日（日）、1 月 23 日（火）～ 31 日 (水)

※予備日および授業の開講されない土曜日・日曜日の取り扱いは研究科によって異なります。

詳細は、研究科からの案内をご確認ください。

2017 年度　立命館大学大学院　学年暦 セメスター制

（理工学研究科、情報理工学研究科、生命科学研究科、薬学研究科）

月	日	曜	行　　事
4	1	土	前期セメスター開始
			オリエンテーション
	2	日	入学式
	3	月	オリエンテーション
	4	火	オリエンテーション
	5	水	オリエンテーション
	6	木	前期セメスター授業開始
	15	土	授業日（水曜日分）
	29	土	統一補講日①／昭和の日
5	3	水	憲法記念日（休日）
	4	木	みどりの日（休日）
	5	金	こどもの日（休日）
	13	土	授業日（金曜日分）
	19	金	本学創立記念日（授業日）
	20	土	統一補講日②
6	3	土	授業日（木曜日分）
	17	土	統一補講日③
7	15	土	統一補講日④
	17	月	海の日（授業日）
	20	木	統一補講日⑤
	31	月	前期セメスター授業終了
8	1	火	夏期休暇開始
	28	月	夏期集中講義（第１週）開始
9	2	土	夏期集中講義（第１週）終了
	4	月	夏期集中講義（第２週）開始
	6	水	前期修了合否発表日（修士）
	9	土	夏期集中講義（第２週）終了
	22	金	秋季オリエンテーション
	23	土	前期学位授与式（修士）／秋分の日
	25	月	秋季入学式
			夏期休暇終了
			前期セメスター終了

月	日	曜	行　　事
9	26	火	後期セメスター開始
			後期セメスター授業開始
10	7	土	学位授与式（課程博士）
	9	月	体育の日（授業日）
	14	土	授業日（月曜日分）
	28	土	統一補講日①
11	3	金	文化の日（授業日）
	18	土	統一補講日②
	23	木	勤労感謝の日（授業日）
12	9	土	統一補講日③
	23	土	天皇誕生日（統一補講日④）
	26	火	冬期休暇開始
1	4	木	冬期休暇終了
	5	金	後期セメスター授業再開
	8	月	成人の日（休日）
	19	金	統一補講日⑤
	31	水	後期セメスター授業終了
2	1	木	春期休暇開始
3	5	月	後期修了合否発表日（修士）
	20	火	学位授与式（修士）衣笠
	21	水	学位授与式（修士）OIC・朱雀／春分の日
	22	木	学位授与式（修士）BKC
	24	土	学位授与式（論文博士）学位授与式（課程博士）
	31	土	春期休暇終了
			後期セメスター終了

（注）開講期間外での祝休日については省略

※授業回数が不足する曜日の授業は、不足分授業日として土曜日に授業を実施します。

※予備日を以下のとおり設定します。

前期セメスター予備日：7 月 21 日（金）、7 月 22 日（土）、7 月 24 日（月）～ 29 日（土）、7 月 31 日（月）

後期セメスター予備日：1 月 20 日（土）、1 月 22 日（月）～ 1 月 27 日（土）、1 月 29 日（月）～ 31 日（水）

※予備日および授業の開講されない土曜日・日曜日の取り扱いは研究科によって異なります。

詳細は、研究科からの案内をご確認ください。

2017 年度　立命館大学大学院　学年暦 クォーター制

（テクノロジー・マネジメント研究科、経営管理研究科）

月	日	曜	行　　事
4	1	土	前期セメスター開始
			オリエンテーション
	2	日	入学式
	3	月	オリエンテーション
	4	火	オリエンテーション
	5	水	第１クォーター授業開始
	29	土	昭和の日（授業日）
5	3	水	憲法記念日（休日）
	4	木	みどりの日（休日）
	5	金	こどもの日（休日）
	19	金	本学創立記念日（授業日）
6	5	月	第１クォーター授業終了
	6	火	第２クォーター授業開始
7	17	月	海の日（授業日）
8	2	水	第２クォーター授業修了
	28	月	夏期集中講義（第１週）開始
9	2	土	夏期集中講義（第１週）終了
	4	月	夏期集中講義（第２週）開始
	6	水	前期修了合否発表日（修士・専門職）
	9	土	夏期集中講義（第２週）終了
	22	金	秋季オリエンテーション
	23	土	前期学位授与式（修士・専門職）／秋分の日
	25	月	秋季入学式
			夏期休暇終了
			前期セメスター終了

月	日	曜	行　　事
9	26	火	後期セメスター開始
			第３クォーター授業開始
10	7	土	学位授与式（課程博士）
	9	月	体育の日（授業日）
11	3	金	文化の日（授業日）
	22	水	第３クォーター授業終了
	23	木	第４クォーター授業開始
			勤労感謝の日（授業日）
12	23	土	天皇誕生日 (授業日)
	26	火	冬期休暇開始
1	4	木	冬期休暇終了
	5	金	第４クォーター授業再開
	8	月	成人の日（休日）
	31	水	第４クォーター授業終了
2	1	木	春期休暇開始
3	5	月	後期修了合否発表日（修士・専門職）
	21	水	学位授与式（修士･専門職）OIC･朱雀／春分の日
	24	土	学位授与式（論文博士）学位授与式（課程博士）
	31	土	春期休暇終了
			後期セメスター終了

（注）開講期間外での祝休日については省略

※補講等の予備日を以下のとおり設定します。

第１クォーター予備日：6 月 3 日（土）～ 6 月 5 日（月）

第２クォーター予備日：8 月 1 日（火）～ 8 月 2 日（水）

第３クォーター予備日：11 月 21 日（火）～ 11 月 22 日（水）

第４クォーター予備日：1 月 26 日（金）～ 28 日（日）

※予備日および授業の開講されない土曜日・日曜日の取り扱いは研究科によって異なります。

詳細は、研究科からの案内をご確認ください。

2017 年度　立命館大学大学院　学年暦

（法務研究科）

月	日	曜	行　　事
4	1	土	前期セメスター開始
			オリエンテーション
	2	日	入学式
	3	月	オリエンテーション
	4	火	オリエンテーション
	5	水	前期セメスター授業開始
	29	土	昭和の日（休日）
5	3	水	憲法記念日（休日）
	4	木	みどりの日（休日）
	5	金	こどもの日（休日）
	19	金	本学創立記念日（授業日）
7	17	月	海の日（授業日）
	26	水	前期セメスター授業終了
	27	木	前期セメスター定期試験開始
8	1	火	前期セメスター定期試験終了
	2	水	夏期休暇開始
	4	金	追試験日
	5	土	追試験日
9	6	水	前期修了合否発表日（専門職）
	23	土	前期学位授与式（専門職）／秋分の日
	25	月	夏期休暇終了
			前期セメスター終了

月	日	曜	行　　事
9	26	火	後期セメスター開始
			後期セメスター授業開始
10	9	月	体育の日（授業日）
11	3	金	文化の日（授業日）
	23	木	勤労感謝の日（授業日）
12	23	土	天皇誕生日（休日）
	26	火	冬期休暇開始
1	4	木	冬期休暇終了
	5	金	後期セメスター授業再開
	8	月	成人の日（授業日）
	23	火	後期セメスター授業終了
	24	水	後期セメスター定期試験開始
	29	月	後期セメスター定期試験終了
	30	火	春期休暇開始
2	1	木	追試験日
	2	金	追試験日
3	5	月	後期修了合否発表日（専門職）
	21	水	学位授与式（専門職）OIC・朱雀／春分の日
	31	土	春期休暇終了
			後期セメスター終了

（注）開講期間外での祝休日については省略

※「より豊かな学修」を促すための復習にあてる予備日を以下のとおり設定します。

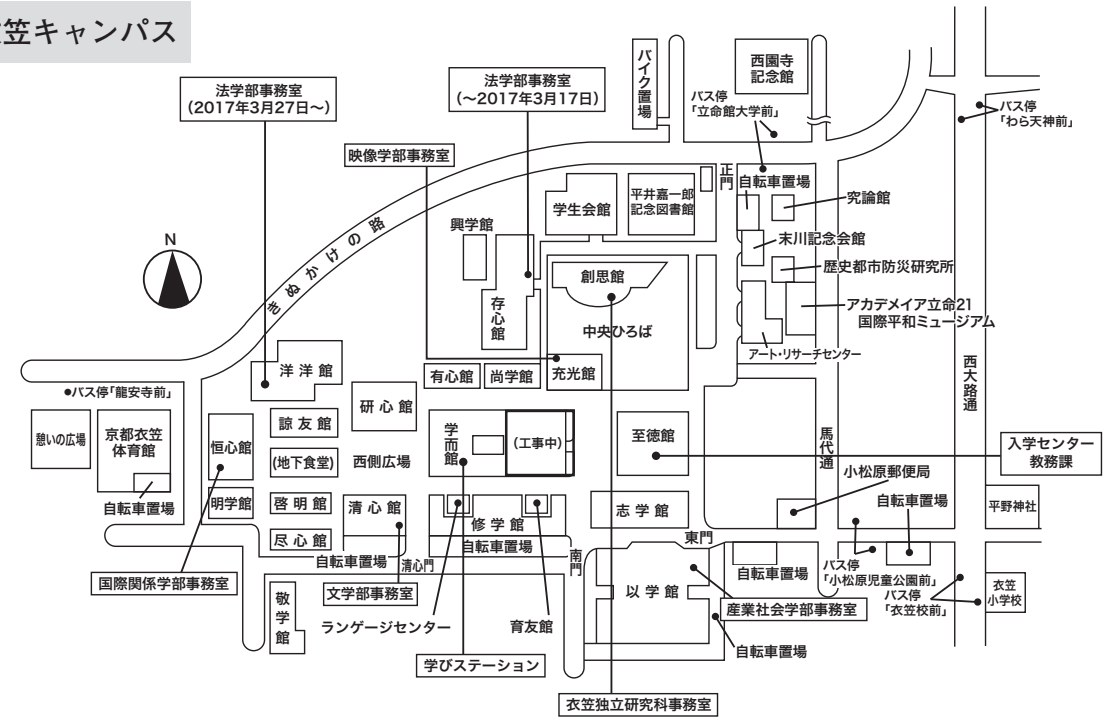
前期セメスター予備日：7 月 22 日（土）、7 月 24 日（月）～ 26 日（水）

後期セメスター予備日：1 月 19 日（金）～ 1 月 20 日（土）、1 月 22 日（月）～ 1 月 23 日（火）

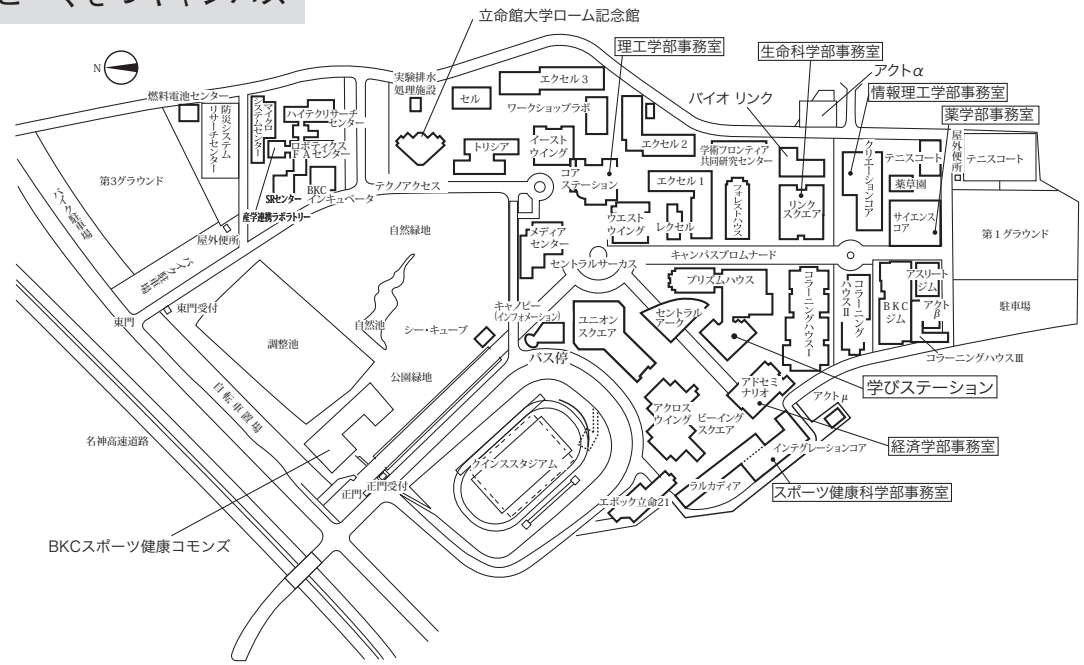
※予備日および授業の開講されない土曜日・日曜日の取り扱いの詳細は、研究科からの案内をご確認ください。

2017年2月現在

衣笠キャンパス



びわこ・くさつキャンパス



立命館大学

衣笠キャンパス　〒603-8577　京都市北区等持院北町 56-1

法学部事務室	075-465-8175	文学部事務室	075-465-8187
産業社会学部事務室	075-465-8184	映像学部事務室	075-465-1990
国際関係学部事務室	075-465-1211	衣笠独立研究科事務室	075-465-8375

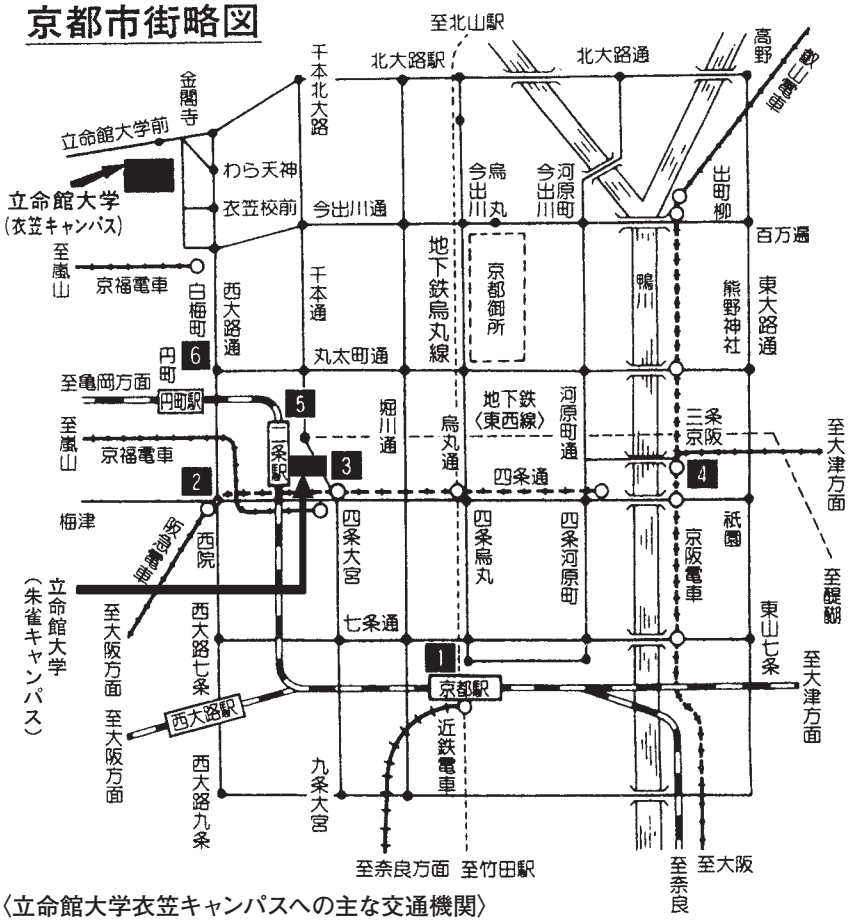
(応用人間科学・言語教育情報・先端総合学術の各研究科)

びわこ・くさつキャンパス　〒525-8577　滋賀県草津市野路東 1-1-1

経済学部事務室	077-561-3940	理工学部事務室	077-561-2625
スポーツ健康科学部事務室	077-561-3760	生命科学部事務室	077-561-5021
情報理工学部事務室	077-561-5202		

朱雀キャンパス

京都市街略図



〈立命館大学衣笠キャンパスへの主な交通機関〉

1 京都駅烏丸中央口より（JR・近鉄）

・市バス 50〈B2 番のりば〉快速 205〈B3 番のりば〉にて「立命館大学前（終点）」下車。
・市バス 205〈B3 番のりば〉にて「衣笠校前」下車、徒歩約 10 分。

2 阪急電車西院駅より

・市バス 205 にて「衣笠校前」下車、徒歩約 10 分。
・市バス快速 202・快速 205 にて「立命館大学前（終点）」下車。

3 阪急電車大宮駅より

・市バス 55 にて「立命館大学前（終点）」下車。

4 京阪電車三条駅より

・市バス 15 にて「立命館大学前（終点）」下車。
・市バス 59 にて「立命館大学前」下車。

5 JR 二条駅より

・市バス 15・55 にて「立命館大学前(終点)」下車。

6 JR 円町駅より

・市バス 205 にて「衣笠校前」下車、徒歩約 10 分。
・市バス快速 202・快速 205・15 にて「立命館大学前（終点）」下車。

〈立命館朱雀キャンパスへの主な交通機関〉

■ JR・地下鉄東西線二条駅、下車すぐ
■京都市バス「千本三条・朱雀立命館前」下車
■ JR バス「千本三条・朱雀立命館前」下車
■阪急電車大宮駅、徒歩約 10 分

立命館大学

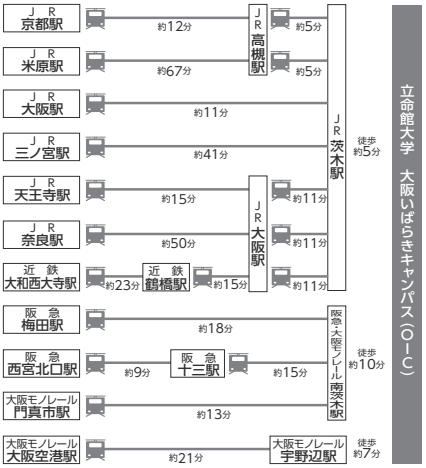
朱雀キャンパス　〒 604-8520　京都市中京区西ノ京朱雀町 1

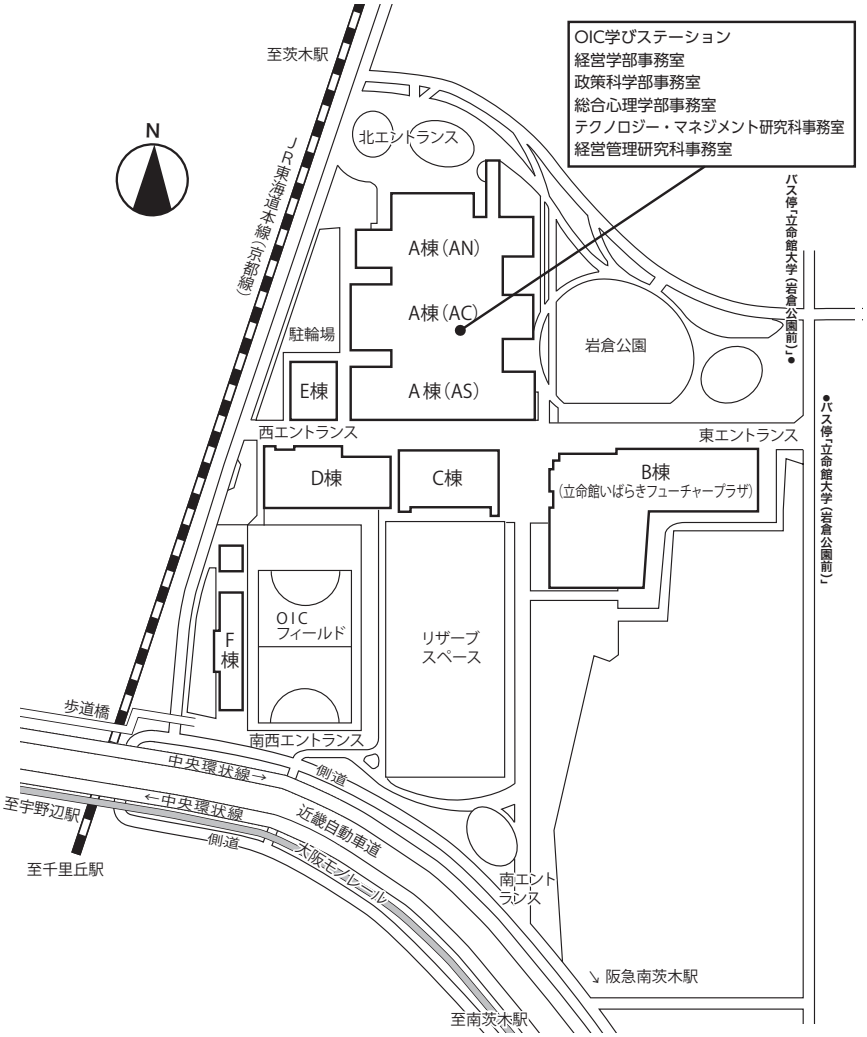
朱雀独立研究科事務室　075-813-8270

（公務研究科、法務研究科、教職研究科）

大阪いばらきキャンパス

大阪いばらきキャンパス（OIC）への交通機関





立命館大学

大阪いばらきキャンパス　〒567-8570　大阪府茨木市岩倉町 2-150

OIC 学びステーション　072-665-2050

（経営学部／研究科、政策科学部／研究科、総合心理学部）

テクノロジー・マネジメント研究科事務室　072-665-2100

経営管理研究科事務室　072-665-2101

個人情報保護基本方針

学校法人立命館（以下「本学園」）は、本学園が教育研究上使用する本学園の学生・生徒等の個人情報について、個人情報保護に関する法令およびその他の規範を遵守するために自主的なルールおよび体制を確立し、以下のとおり個人情報保護基本方針を定め、これを実行し維持します。なお、学術研究の用に供する目的で行う個人情報の取り扱いについては別に定めるものとします。

記

1．本学園は、この基本方針を実行するために、「学校法人立命館個人情報保護規程」を定め、一般に公表するとともに、本学園教職員等（役員、教員、職員、パートタイマー、派遣労働者等を含む）および学園関係者に周知徹底させます。

2．本学園は、個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏えい等を防止するため、不正アクセス対策、コンピュータウイルス対策など適切な情報セキュリティ対策を講じます。

3．本学園は、個人情報の入手にあたり、適法かつ公正な手段によって行い、不正な方法により入手しないことはもちろん、個人情報の主体である本人から利用目的等について同意をとるか、本学園インターネットホームページに必要事項を告知します。

4．本学園は、個人情報を間接的に入手する場合、入手する個人情報について、提供者が本人から適正に入手したものであるかどうかを確認し、本学園インターネットホームページに個人情報の利用目的等の必要事項を告知します。

5．本学園は、個人情報の本人が自己個人情報について、開示、訂正、使用停止、消去等の権利を有していることを確認し、本人からのこれらの請求を尊重して対応します。

6．本学園は、個人情報を第三者との間で共同利用したり、業務を委託するために個人情報を第三者に預託する場合は、当該第三者について調査し必要な契約を締結し、その他法令上必要な措置を講じます。

7．個人情報については、本学園が設置する学校に現在在籍する学生・生徒および過去に在籍した学生・生徒に限らず、本学園が設置する学校の学生・生徒となる目的で本人から提供された個人情報についても同様に厳密に取り扱います。

8．具体的な個人情報取得、取り扱いのため以下の原則を定めます。

○個人情報の利用は、取得目的の範囲内で、具体的に業務に応じ権限を与えられた者のみが、業務の遂行上必要な限りにおいて行うものとします。

○個人情報を第三者に提供することを原則として行いません。

○個人情報の目的外利用、通常の利用場所からの持ち出し、外部への送信等の個人情報の漏えい行為を行いません。

○本学園従事者が、業務上知り得た個人情報の内容をみだりに第三者に知らせ、または不当な目的に使用することを禁じます。その業務に係る職を退いた後も同様とします。

○次に示す内容を含む個人情報の取得、利用または提供を行いません。

1．思想、信条および宗教に関する事項

2．社会的差別の原因となる事項

2005年4月1日

立命館大学における個人情報の取扱いについて

立命館大学（以下「本学」といいます。）は、個人情報保護に関する法令および「学校法人立命館個人情報保護規程」を遵守し、本学が再入学予定者から取得する個人情報を以下のように取扱います。

〈利用目的〉

学生の個人情報は、以下の目的のために利用します。

・学籍管理、履修管理、成績管理、学費情報管理等、学生等の学修支援を行うため
・学生生活相談、課外活動支援、奨学金管理、保健衛生管理等、学生等の学生生活支援を行うため
・進路指導、就職活動支援、進路就職情報管理等、学生等の進路就職支援を行うため
・保護者への成績表送付等、保護者との履修、成績、進路相談を行うため
・入学試験業務、入学手続業務執行のため
・本学および学校法人立命館が設置する各校の各種案内物送付のため
・学内施設・設備の利用管理、保安管理のため
・各種証明書発行のため
・奨学事業を行う団体、卒業生等で組織する団体、学生等の父母で組織する団体等、学校法人立命館個人情報保護委員会で認められた団体に必要情報を提供するため
・出身高等学校への学修状況、学生生活状況等の情報提供を行うため
・大学評価（自己点検評価・第三者評価・認証評価等）、各種統計調査のため
・教育、研究、ＦＤ活動のため
・その他、本学の管理・運営に関する業務に必要な事項を処理するため

〈個人情報の管理〉

学生の個人情報は、法令および学校法人立命館個人情報保護規程に則り、漏洩・滅失・毀損等がないよう安全に管理します。

〈個人情報の提供を伴う業務委託〉

本学は、個人情報の取扱を含む業務の一部を個人情報の適切な取扱に関する契約を締結した上で、外部の事業者に委託することがあります。

〈個人情報の第三者提供〉

本学は、あらかじめ本人の同意を得ないで、個人情報を学校法人立命館以外の団体（以下「第三者」といいます。）に提供することはありません。

なお、個人情報保護に関する法律第２３条２項にもとづき、利用目的の達成に必要な範囲で本法人が承認し、かつ本学ホームページ等を通じてその内容を公開した場合、個人情報を第三者に提供することがあります。ただし、第三者提供の停止手続をとった場合は提供しません。第三者提供先への個人情報のデータ提供を拒否する場合は、下記より必要な手続を行ってください。

■ 学校法人立命館への個人データの開示、訂正等、利用停止等の請求手続ホームページ
http://www.ritsumeikan-trust.jp/info/privacypolicy/g01_04_j/

個人情報の取扱いに関する同意書

年　　月　　日

立命館大学長　殿

私は、立命館大学で授業を履修するにあたり、立命館大学が「立命館大学における個人情報の取扱いについて」（別紙）を遵守することを前提に、私の個人情報を使用することに同意します。

学　部：＿＿＿＿＿＿＿＿学部

大学院：＿＿＿＿＿＿＿＿研究科

本人氏名（本人自筆）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

保証人氏名（保証人自筆）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（未成年の方のみ）

本人との関係＿＿＿＿＿＿＿＿

学部科目等履修志望理由書

学　部	学部	氏　名	

記入上の注意

本用紙を使用し、科目等履修を志望する理由・学習計画について、自筆で500字程度にまとめてください。

立命館大学

大学院科目等履修志望理由書

研究科		受講志望科目名			
氏　名			男・女	整理番号	※記入不要

記入上の注意

1．本用紙を使用し、自筆で 500 字程度にまとめてください。
2．科目ごとに 1 枚必要です。2 科目以上の場合は各自で複写してください。
3．次の点を中心にして記入してください。
　①科目等履修を志望する理由
　②学習計画

立命館大学大学院

自己申告票①

ふりがな 氏　　名	

1. 希望教員免許状（本年度履修を希望する教科について記載してください）

免許状の種類	免許取得希望教科	出　願　学　部
中学校教諭一種免許状		
高等学校教諭一種免許状		
小学校教諭一種免許状		
特別支援学校教諭一種免許状		

2. 取得済みの教員免許状（すでに所持している免許状について記載してください）

免許状の種類	教　　科	単位取得大学	授与年月日	授与教育委員会
中学校教諭一種免許状				
高等学校教諭一種免許状				
小学校教諭一種免許状				

3. 介護等体験実習について（該当するものに○を付してください）

□ すでに実習を終了し証明書を所持している。
□ 実習の必要はない（高等学校教諭一種免許状のみ取得希望）
□ 本学で履修予定（①本年度実習希望　②次年度実習希望　③それ以降に実習予定）

4. 希望免許状取得予定について（該当するものに○を付してください）

□ 今年度中に立命館大学のみでの履修で取得予定（① 2017 年度前期　② 2017 年度後期）
□ 今年度中に立命館大学と他大学との併修により取得予定（① 2017 年度前期　② 2017 年度後期）
□ 今年度中には取得予定なし（　　年　　月に取得を予定）

5. これまでの希望教科に関する履修状況について

年・月	大学・学部名	履修状況
例）2010 年 3 月	立命館大学文学部	高等学校一種免許状（公民科）取得。中学校（社会科）については取得にいたらず。
2013 年度	立命館大学文学部	中学校（社会科）不足単位の一部を履修

6．履修カルテについて

□ 有　　□ 無
⇒「有」の場合　□ 本学出身者（在籍時の Rainbow ID　　）
□ 他大学出身者（大学名　　）

自己申告票②

(記入にあたっての注意事項)

1．出身大学等で既に修得した科目が、免許取得の上でどのような分野に位置付けられるかについての判断は、その科目を修得した大学の教職課程カリキュラムによります。ご不明の場合は履修した大学にお問い合わせください。

2．今年度、本学で受講する科目の教免法上の分野は、本学のカリキュラムによります。受講をお申し込みの際に、出願学部の事務室でご確認ください。

※本学の教職科目は新法（平成 10 年改正法）対応で開講しているためそれ以前の法律にもとづき修得された単位は新法に合わせて記入してください。

※複数の教科の免許状の取得を希望する場合は、必要な数だけ用紙をコピーのうえ、ご記入・ご提出ください。

ふりがな 氏　名			
申請免許状の種類		教　科	
基礎資格	大学　　学部　　学科	年　月　日　入学 年　月　日　卒業	
別表第１備考４号確認欄 （取得済みは○）	１「日本国憲法」に関する科目２単位以上修得　３「外国語コミュニケーション」に関する科目２単位以上修得 ２「体育」に関する科目２単位以上修得　４「情報機器の操作」に関する科目２単位以上修得		

	免許法施行規則の科目名		単位小計	授業科目名	単位数	履修または登録を記入
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
		進路選択に資する各種の機会の提供等				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
		教育に関する社会的、制度的または経営的事項				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
		各教科の指導法				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
		道徳の指導法（中学のみ）				既修・登録(本学)・登録(他大学)
		特別活動の指導法				既修・登録(本学)・登録(他大学)
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
		進路指導の理論及び方法				既修・登録(本学)・登録(他大学)
	総合演習					既　修　・　未　修
	教職実践演習					既修・登録(本学)・登録(他大学)
	教育実習					既修・登録(本学)・登録(他大学)
						既修・登録(本学)・登録(他大学)
	計			既修　単位	登録(本学)　単位	登録（他大学）　単位
	備考					

	免許法施行規則の科目名	単位小計	授業科目名	単位数	履修または登録を記入
教科に関する科目					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
	計		既修 単位	登録(本学) 単位	登録（他大学） 単位
教科または教職に関する科目					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
					既修・登録(本学)・登録(他大学)
	計		既修 単位	登録(本学) 単位	登録（他大学） 単位

※科目等履修生番号(記入不要)	

2017 年度　立命館大学

科目等履修受講科目申請票

学部・研究科	フリガナ	
	氏　　名	

希望科目（他の学部・研究科で開講する科目は「他学部・研究科受講欄」に学部名・研究科名を記入してください）

No.	授業コード	科目名	クラス	単位	他学部･研究科受講	期別	曜日	時限	担当者	備考
1						前後通夏				
2						前後通夏				
3						前後通夏				
4						前後通夏				
5						前後通夏				
6						前後通夏				
7						前後通夏				
8						前後通夏				
9						前後通夏				
10						前後通夏				
11						前後通夏				
12						前後通夏				
13						前後通夏				
14						前後通夏				
15						前後通夏				
16						前後通夏				
17						前後通夏				
18						前後通夏				
19						前後通夏				
20						前後通夏				

前期申請者用	3月受講登録単位数	前期科目	科目　単位	科目履修料	
		後期科目	科目　単位		
		通年科目	科目　単位		
	9月後期科目受講登録修正	取消科目	科目　単位		
		追加科目	科目　単位		
	修正後受講登録単位数	後期科目	科目　単位	科目履修料	
後期新規出願者用	後期受講登録単位数		科目　単位	科目履修料	
希望教員免許状（校種・教科）			取得教員免許状（校種・教科）		

事務室記入欄（記入しないこと）

様　式6－1

2017年度　科目等履修願

※出願区分	1	出願学部	8			5
※整理番号						
※科目等履修生番号	8					

学部	学部				
大学院	研究科	生年月日	年　月　日生	申請日	年　月　日
フリガナ		ローマ字氏名			1 男・2 女
氏名	㊞	☆本名			
現住所	〒（　－　）	1 自宅 3 下宿他	TEL（　）　－ 携帯（　）　－ メールアドレス		
履修料等請求先	※履修料等請求先が現住所と異なる場合のみ記入してください。 〒（　－　）		TEL（　） －		
最終学歴	年　月　日	高等学校（全・定）	科		卒業
	年　月　日	大学・短期大学 高等専門学校	学部	学科	専攻　卒業 中退
	年　月　日	大学院	研究科	専攻	課程　修了・中退 単位取得退学
履修許可後の職業区分 （いずれかに○印をつけてください。）	1. 正社員（専任）　2. 臨時（アルバイト・非常勤）　3. 主婦　4. 無職　5. 学生（他大学正規生・　大学） 6. その他（　）				
勤務先または所属学校名	名称		TEL（　） －　内線		
	所在地	〒（　－　）			
保証人またはご家族の方	フリガナ		続柄	TEL（　）　－	写真貼付 2.4cm×3cm （3カ月以内のもの）
	氏名				
	現住所	〒（　－　）			
本学での履修状況	年度　第1部・第2部・大学院	学部・研究科　正規生	学生証番号（　）		
	年度　第1部・第2部・大学院	学部・研究科　聴講生・科目等履修生	学生証番号（　）		
	年度　第1部・第2部・大学院	学部・研究科　聴講生・科目等履修生	学生証番号（　）		
区分	1. 学部　　2. 大学院 教免取得・学芸員取得・学位取得・その他（　）				

（外国人の方のみ記入してください）

※記入不要区分コード	国籍（国名を記入し、第2国籍もあれば記入してください）		※記入不要コード	外国人区分（いずれかに○印をつけてください）	
1	第1国籍			1	留学生以外の外国人
2	第2国籍			2	留学を目的として来日した外国人

☆最終学歴の卒業証明書を添付してください。また教育職員免許状取得を目的とする場合、別紙「自己申告票①」および「自己申告票②」およびP.21で指示されている書類の提出が必要です。

☆本名欄は在日外国人の方で、通称名を使っている場合のみ記入し、氏名欄には通称名を記入してください。

☆出願時の提出書類について

・個人情報は、法令および学校法人立命館個人情報保護規程に則り、漏洩・滅失・毀損等がないよう安全に管理します。なお不許可となった場合は、大学が責任をもって廃棄します。

申請志望学部・研究科	※申請学部・研究科が複数の場合に記入

☆複数の学部にまたがって申請する場合は、該当の事務室と相談の上、指定された1つの学部に提出。複数の研究科の場合も1つの研究科に提出。

（下記の欄は記入不要）

所見		
判定	3：許可　　2：不許可	科目等履修生選考料 ¥10,000 － 立命館大学証紙受付欄
許可日	年　月　日	
許可単位数	科目　単位（文　理）	
履修期間	年　月　日 ～　年　月　日	

立命館大学